

SYLLABUS

2021 年度 講義要項

3 年 (2019 年度入学)

和 歌 山 信 愛 大 学

和歌山信愛大学 教育学部 子ども教育学科 2021年度 シラバス 目次 3年 (2019年度入学)

科目区分		授業科目的名称	教員名	実務家教員*	単位数	配当年次	授業形態	卒業に必要な科目・単位数	頁	
共通基礎科目	教養科目	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	千森督子 森崎陽子		2	3通年	実験実習	△	1	
		キャリアガイダンスⅠ	森崎陽子 辻伸幸	*	1	3通年(隔週)	講義	●	2	
		教師への道Ⅰ	木本毅	*	2	3前期	講義	△	3	
		教師への道Ⅱ	木本毅	*	2	3後期	講義	△	4	
科目連携	科探地目求城	地域防災教育論	馬場一博		2	3後期	講義	●	5	
専門教育科目	教科・専門保育領域内容の	音楽表現研究	桐山由香	*	1	3前期	演習	○	7	
		造形表現研究	戸潤幸夫		1	3前期	演習	○	8	
		幼児体育Ⅰ	加藤博之		1	幼3前 小3後	演習	○	9	
		幼児体育Ⅱ	加藤博之		1	3後期	演習	○	10	
		保育の表現技術（言葉）	山本玲子	*	1	3後期	演習	○	11	
		鍵盤楽器の表現技法	溝口希久生	*	2	3通年	演習	○	12-13	
	子どもの理解	子どもの保健Ⅱ	内海みよ子		1	3前期	演習	△	14	
		子どもの食と栄養Ⅰ	土井有美子	*	1	3前期	演習	△	15	
		子どもの食と栄養Ⅱ	土井有美子	*	1	3後期	演習	△	16	
	子どものニーズ支援	特別支援教育・保育Ⅰ	村上凡子	*	1	3前期	演習	●	17	
		特別支援教育・保育Ⅱ	村上凡子	*	1	3後期	演習	●	18	
		社会的養護内容	衣斐哲臣		1	3前期	演習	△	19	
		相談援助	森下順子	*	1	3前期	演習	△	20	
		教育相談支援	村上凡子	*	2	3前期	講義	●	21	
		地域と子育て支援	森下順子	*	2	3後期	講義	△	22	
		保育相談支援	森下順子	*	1	3後期	演習	△	23	
		生徒指導・進路指導の理論と方法	犬塚文雄 岸田正幸		2	3前期	講義	△	24-25	
	教育・保育の指導法	保育内容の指導法Ⅱ	山下悦子	*	2	3前期	演習	●	26-27	
		初等教科教育法（算数）	山本紀代	*	2	3前期	講義	△	28	
		初等教科教育法（社会）	西端幸信	*	2	3前期	講義	△	29	
		初等教科教育法（理科）	秋吉博之	*	2	3前期	講義	△	30	
		初等教科教育法（英語）	辻伸幸	*	2	3前期	講義	△	31	
		初等教科教育法（家庭）	中根真富	*	1	3前期	演習	△	32	
		道徳教育指導論	福田光男	*	2	3前期	講義	△	33	
		総合的な学習の時間指導論	山本紀代	*	2	3前期	講義	△	34	
		乳児保育Ⅰ	栗林恵	*	1	3前期	演習	△	35	
		乳児保育Ⅱ	栗林恵	*	1	3後期	演習	△	36	
	実習	幼稚園実習Ⅱ	小田真弓	*	2	3通年	実験実習	△	37	
		幼稚園実習指導Ⅱ	小田真弓	*	1	3通年	演習	△	38-39	
		小学校実習	辻伸幸 山本紀代	*	4	3通年	実験実習	△	40	
		小学校実習指導	辻伸幸 山本紀代	*	1	3通年	演習	△	41-42	
		保育実習Ⅰ（保育所）	小田真弓	*	2	3通年	実験実習	△	43	
		保育実習指導Ⅰ（保育所）	小田真弓	*	1	3通年	演習	△	44-45	
		保育実習Ⅰ（施設）	森下順子	*	2	2後期 3前期 通年	実験実習	△	46	
		保育実習指導Ⅰ（施設）	森下順子	*	1	2後期 3前期 通年	演習	△	47-48	
		保育実習Ⅱ	小田真弓	*	2	3後期	実験実習	△	49	
		保育実習指導Ⅱ	小田真弓	*	1	3後期	演習	△	50	
課題探求科目	研究実践	保育内容実践研究	戸潤 森下 桐山 小田		2	3通年	演習	○	51-52	
	総合研究	教科実践研究	秋吉 小林 辻 山本		2	3通年	演習	○	53-54	
	専門ゼミナールⅠ		村上 秋吉 小林 戸潤 木本 桑原 溝口 辻 桐山 山本		2	3通年	演習	●	55-56	
		3年合計単位数			67 (+3) ※					
		(うち、実務家教員による単位数)			50 (+3) ※					
		学部内全学年（1年・2年・3年）合計単位数			194					
(うち、実務家教員による単位数)					143					
									※2年次にカウント	

- 必修
- 選択必修
- △ 選択

シラバス（Syllabus 講義要項）の利用方法

1 シラバスとは何か

シラバスとは、各授業科目の内容を詳しく記載した文書です。シラバスを見ることにより、当該授業でどのようなことを学べるのか、詳しく知ることができます。

2 シラバスの活用方法

(1) 履修する科目的選択

学生の皆さんには『履修のてびき』、シラバスおよび時間割表を参照し、自分が今年度に履修すべき授業科目を確認の上、期間内に履修登録を行ってください。なお、シラバスは大学ホームページでも公開します。

(2) 教科書・教材の準備

履修する科目が決まったら、シラバスの記載をもとに教科書や教材を準備しておいてください。なお、教科書購入方法については別途案内します。

(3) 時間割・教室の確認

時間割および教室は、ガイダンス等で公表される時間割表を確認してください。

(4) 予習・復習内容の確認

シラバスでは、授業時間中の教育内容はもちろん、授業前後の予習・復習、レポートや課題など、授業時間外での学習についても詳細に記載されています。これは学生の皆さんのが授業内容を確実に修得することを支援しています。

(5) オフィスアワーの活用

授業に関することで分からぬことや相談したいことがあれば、担当教員のオフィスアワーを利用して、研究室を訪問してください。オフィスアワーにて各教員が在室している時間帯がわかります。

(6) 成績評価方法の確認

シラバスには、学生が当該授業で到達すべき目標を設定しています。学生がその目標に到達したかを確認するため、成績評価が行われます。成績評価の方法は、シラバスに具体的に記載されており、学生はそれを見ることによって、自分の学習内容がどのように評価されるのかを予め確認することができます。また、成績評価の終了後、自分の成績評価に異議のある場合は、シラバスの成績評価に関する記載をもとに質問することができます。異議申し立ての手続きに関しては『履修のてびき』を確認してください。

(7) 授業改善

大学における授業は、原則シラバスに基づいて行われます。したがって、シラバスの改善が授業の改善につながります。シラバスの記載に不明な点がある場合は、積極的に担当教員に質問してください。

3 シラバスの見方

(1) 配当年次

当該授業科目を履修できる年次を記載しています。

(2) 開講期

「前期」「後期」「通年」の区分があります。

(3) 科目名

当該授業科目の名称を記載しています。

(4) 担当者

当該授業科目を主として担当する教員の名前を記載しています。

(5) 単位

当該授業科目を修得した場合に与えられる単位数を記載しています。

(6) 卒業 必・選

卒業するために必要な必修科目・選択必修科目・選択科目を記載しています。また、卒業要件とは別に、免許・資格取得に関わる必修科目・選択必修科目があるので、間違わないようにしてください。詳細は『履修のてびき』を参照してください。

(7) 授業形態

「講義」「演習」「実験・実習」の区分があります。

(8) 授業の概要

当該授業科目のテーマ、ねらい、内容の概要などについて記載しています。

(9) 授業の目標

学生が当該授業科目において到達すべき目標（「この授業を受け終った学生は、何ができるようになっているか」）を具体的に記載しています。授業の目標は成績評価に密接に関わっているので、よく確認してください。

(10) 授業のテーマ及び内容

各回の授業内容を授業の展開に沿って具体的に記載しています。授業を受ける前に必ず確認し、各回の授業内容と授業全体の流れを頭に入れるよう心掛けてください。

(11) 成績評価方法

成績評価の方法（定期試験、課題レポート、提出物など）、評価の割合などについて具体的に記載しています。

(12) 教科書・参考書

教科書は授業を受けるにあたって必ず入手すべき文献であり、必要なものです。参考書は当該授業の内容についてより発展的に自主学習を行いたい場合に参照する文献です。また適宜教材として担当教員より指示がある場合があります。

(13) 授業外の学習方法

授業外における予習・復習について具体的に指示しています。

(14) 免許・資格

免許・資格のために必要な必修科目・選択必修科目を記載しています。卒業要件に関わる必修科目・選択必修科目・選択科目と区別して、間違わないようにしてください。

(15) 実務経験と教授内容

当該授業科目を担当する教員が、その分野でどのような実務経験をもっているかを記載しています。

共通基礎科目

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	通年	インターンシップ (事前・事後指導を含む)	千森督子 森崎陽子	2	選択	実験・実習					
授業の概要		教育者・保育者となる前に、社会人としての勤労意識を養う科目である。民間企業や地方公共団体などで就業体験を行う。実習体験を通じて、その職業に対する理解を深め、社会人として求められる勤労観を深く知ることを目標とする。また、就業体験の前に事前研修を、就業体験の後に研修報告会を行う。さらに、教職・保育職との違いや類似点、大学での学びと実社会との関連などに直接体験を通じて気付き、人間的な成長を図ることを目標とする。									
授業の目標		インターンシップを通して社会人としての勤労意識を養う科目である。 【目標】 ①自己を理解し適性を知る ②就職活動に向けた準備や手続きを理解する ③就労の実態を体感し、就職活動の幅を広げる ④多様な人々と共に目標に向けて協力する力を養う									
授業のテーマ及び内容											
<p>授業計画</p> <p>事前指導</p> <p>ガイダンスⅠ（インターンシップ意義・目標・心得と実習先の選択、エントリーシート作成等）</p> <p>ガイダンスⅡ（エントリー練習シートチェックとWebエントリー方法の説明、実習先決定と理解等）</p> <p>ガイダンスⅢ（事務手続きを含む事前準備、ビジネスマナー、参加にあたっての注意事項等）</p> <p>実習 1日8時間10日間程度の実習に取り組む(実習期間中は実習要録作成)</p> <p>事後指導</p> <p>ガイダンスIV（実習要録整理し提出、自己の到達状況把握）</p>											
成績評価方法	外部評価 70%, 実習要録 20%, 授業への参加度 10%										
教科書	教科書は特に指定せず適宜資料を配布										
参考書	『大学生のためのキャリアデザイン 自己を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 川崎友嗣編 『インターンシップ入門：就活力・仕事力を身につける』玉川大学出版部 日本インターンシップ学会関東支部監修、折戸晴雄他編										
授業外の学習方法	配布資料等の復習を行い、理解を深める。										
免許・資格											
実務経験と教授内容											

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態			
3	通年	キャリアガイダンス I	森崎陽子 辻伸幸	1	必修	講義			
授業の概要		教育者・保育者等としてキャリアをスタートさせるための準備段階にあたる科目である。討論やロールプレイ等を通して大学や学外実習で身に付けた知識と技能を有機的に結びつけ、教職・保育職等への意欲と教育・保育等について客観的に考える力の向上を目指す。目標すべき、教育者・保育者等の姿を明確にすると共に、就活の仕方、履歴書の作成、筆記試験対策、面接練習など、採用に至るまでの道筋を、演習形式で学ぶ。							
授業の目標		取得する資格、免許に応じ進路を検討するための情報の収集と進路に応じた受験対策を行う。							
回	授業のテーマ及び内容			各回 50 分					
1	オリエンテーション 方向性の決定と情報収集の仕方		8	筆記試験対策 一般教養					
2	キャリアに向けた個別プランの作成		9	進路別筆記試験対策 教員採用試験・SPI・公立保育所・公務員					
3	ゲストによる就職試験対策講座		10	「論文」の書き方 「志望の動機」「理想とする教師像・保育者像」					
4	ビジネスマナー 身だしなみ・挨拶の仕方・言葉遣い・所作等		11	論文の作成					
5	SPIと自己分析		12	面接の基礎編（個人）					
6	エントリーシートの書き方		13	面接の応用編（集団）					
7	履歴書の書き方		14	まとめ 来年度に向けたプラン作成					
成績評価方法		課題レポート 40%, 授業への取り組み 60%							
教科書		適宜資料を配布する。							
参考書		『大学生のためのキャリアガイドブック』 北大路書房 長尾博暢他著							
授業外の学習方法		配布される資料の内容を用いて事前事後の予習復習を行う。							
免許・資格									
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当							

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	教師への道Ⅰ	木本毅	2	選択	講義		
授業の概要		公立小学校・幼稚園、保育所等の教員・保育士あるいは地方公共団体の公務員として勤めるために必要な、一般及び専門教養について学ぶ科目である。特に、和歌山県や近隣の都道府県における教員採用試験や公務員試験の一般教養「人文科学」「社会科学」の分野における頻出問題を例に、その学問的背景と関連する領域について専門のゲストスピーカーを招いて学修し、地域社会の課題に職業人として対応できる、教育者としての真の教養の修得を目指す。						
授業の目標		教員採用試験及び公務員試験における人文科学、社会科学及び自然科学領域の学力練成とともに現場での指導のあり方と指導上の留意・配慮事項等を教育現場経験豊かな教員から実践的に学ぶ。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	国語1(漢字、熟語・成句、文法、文學史等)			8	英語1(評論文・パラグラフ・リーディングの読解)			
2	国語2(現代文、評論文の鑑賞)			9	英語2(コミュニケーション英語読解と表現)			
3	国語3(古典の鑑賞と小論文の書き方)			10	算数・数学1(約数、倍数、分数、自然数、整数、無理数、因数分解)			
4	地理1(日本の地理・気候・産業・貿易等)			11	算数・数学2(一次方程式、二次方程式、不等式)			
5	歴史1(日本の歴史=古代、中世、近世、近代、現代)			12	生物1(生物体、細胞、生殖、代謝、光合成等)			
6	倫理(西洋、東洋、日本)			13	化学1(物質の構造と状態、気体・液体・固体・薬品)			
7	政治(憲法、司法、立法、行政等)			14	物理(力と運動、仕事とエネルギー、波動と電磁気)			
成績評価方法		定期試験 50%, 小テスト(2回) 40%, 課題レポート及び授業への取り組み 10%						
教科書		適宜、資料を配布する。						
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『新教育制度論』ウイング印刷 木本毅著 教員及び公務員採用試験問題集						
授業外の学習方法		予習と復習(練習問題)を行うこと。(週2時間程度)						
免許・資格								
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	後期	教師への道Ⅱ	木本毅	2	選択	講義					
授業の概要		公立小学校・幼稚園、保育所等の教員・保育士あるいは地方公共団体の公務員として勤めるために必要な、一般及び専門教養について学ぶ科目である。特に、和歌山県や近隣の都道府県における教員採用試験や公務員試験の一般教養「自然科学」「環境・情報科学」の分野における頻出問題を例に、その学問的背景と関連する領域について専門のゲストスピーカーを招いて学修し、地域社会の課題に職業人として対応できる、教育者としての真の教養の修得を目指す。									
授業の目標		教員採用試験、公務員試験等で問われる自然科学、人文科学、環境・情報科学の分野の学力鍛成とともに関連する領域の指導の在り方と留意・配慮事項について、教職経験豊かな教員から実践的に学ぶ。									
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分						
1	地理2(世界の地理・産業・自然・資源等)		8	総合4(特別支援教育の制度と歴史及び関連法令、外国語活動等)							
2	歴史2(世界の歴史=古代、中世、近世、近代、現代)		9	算数・数学3(関数、数学、数列)							
3	経済(経済、市場、労働、金融等)		10	算数・数学4(確率、統計、集合)							
4	時事(政治、経済、少子高齢、医療、環境等)		11	算数・数学5(命題、証明、必要・十分条件等)							
5	総合1(特別支援教育の理念と在り方、情報教育等)		12	生物2(動植物のつくり、生態系、食物連鎖、遺伝と進化)							
6	総合2(特別支援教育(LD, ADHD, 自閉症)、環境教育等)		13	化学2(化学反応式、酸化・還元・分解、無機・有機化合物)							
7	総合3(特別支援教育の就学=知的障害、肢体不自由、発達障害、外国語等)		14	地学(地球、大気と海洋、気象、気圧、宇宙、地層と化石)							
成績評価方法		定期試験 50%, 小テスト(2回)40%, 課題レポート及び授業への取り組み 10%									
教科書		適宜、資料を配布する。									
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『新教育制度論』 ウイング印刷 木本毅著 教員及び公務員採用試験問題集									
授業外の学習方法		予習と復習(練習問題)を行うこと。(週2時間程度)									
免許・資格											
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当。									

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	後期	地域防災教育論	馬場一博	2	必修	講義		
授業の概要		来るべき災害に備え、子どもたちが主体的に動こうとする知識・判断力・行動力を身に付けるための学習・訓練を行う防災教育の理論と実際にについて学ぶ科目である。『和歌山県防災教育指導の手引き』に基づき、児童生徒が主体的に動こうとする知識・判断力・行動力を身に付けるための学習と災害を具体的に想定した避難訓練の在り方について学習する。津波避難3原則「想定にとらわれるな」「状況下において最善を尽くせ」「率先避難者たれ」を浸透させ、子どもたちに自らが命を守る主体者としての自覚と、真剣に防災と向き合い、子どもたちと共に考え方行動する意識の涵養を目指す。						
授業の目標		「和歌山県における災害・復興の歴史と防災教育」をテーマに、4つの内容に関する知識と考察・対応能力を身に付けることを目標とする。1つ目は、本県における災害と復興、そしてその教訓について。2つ目は、本県発の防災教材である「稻むらの火」がどのように生まれ、「世界津波の日」の制定に至ったのかについて。3つ目は、東北地方大震災の発生時に、「釜石の奇跡」と言わされた防災教育の活動と有用性について。4つ目は、和歌山県で作成されてきた防災教育教材と県内各地で取り組まれている防災教育の実際についてである。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	ガイダンス(授業計画と評価の説明、防災教育に関するレディネス調査)			8	東北地方大震災と防災教育①～震災被害と「釜石の奇跡」～			
2	和歌山県における災害・復興の歴史①～7・18水害と復興～			9	東北地方大震災と防災教育②～防災教育に関する手引きの作成～			
3	和歌山県における災害・復興の歴史②～南海・東南海地震と復興～			10	和歌山県における防災教育の実際①～防災関連情報の収集方法～			
4	和歌山県における災害・復興の歴史③～先人たちが残した災害の記録～			11	和歌山県における防災教育の実際②～就学前・低学年児童への防災教育～			
5	和歌山県における災害・復興の歴史④～災害の記録(「高濤記」)の教材化～			12	和歌山県における防災教育の実際③～中学年・高学年児童への防災教育～			
6	「稻むらの火」と世界津波の日①～国語教材「稻むらの火」と濱口梧陵～			13	和歌山県における防災教育の実際④～中高生への防災教育と防災活動～			
7	「稻むらの火」と世界津波の日②～防災教材「稻むらの火」の誕生～			14	和歌山県における防災教育の実際⑤～防災教育と行動変容～			
成績評価方法		定期試験の成績 60%, 小テスト 20%, リアクションペーパー 20%						
教科書		毎回の授業で資料を配付する。 『人が死ぬない防災』集英社新書(2012年) 片田敏孝						
参考書		『和歌山県防災教育指導の手引き』(平成25年) 和歌山県教育庁学校教育局健康体育課 『「稻むらの火」の文化史』 久山社刊(平成11年) 府川源一郎 『教育現場の防災読本』 京都大学学術出版会(平成30年) 「防災読本」出版委員会						
授業外の学習方法		復習とともに、授業の後に示す次回の授業に関する課題を行っておくこと。(週2時間程度)						
免許・資格								
実務経験と教授内容								

専門教育科目

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	音楽表現研究	桐山由香	1	選必	演習		
授業の概要		音楽表現の発展的科目である。表現領域の様々な活動と融合させた発展的な音楽表現活動について研究する。音楽あそびのレパートリーを増やし、模擬授業を行いながら実践力を高める。授業で学習した表現活動を活用し、グループでオリジナルの表現活動を創作する。「子どもの表現Ⅱ」での学習を、より深めていく。途中経過を毎回発表しあうことで、情報の共有化や自己の振り返りにより、作品を改善する作業を積み重ねる。最後に創作した表現活動をグループごとに記録し、まとめる。						
授業の目標		子どもの表現Ⅰで身に付けた音楽的表現力をさらに高め、教育や福祉の現場等での即実践力、応用力を身につける。表現領域の基礎知識を深め、総合的な表現活動についても研究する。グループ活動に取り組む力や相互の表現を認め、共有化し深めていく力を育成する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション：授業の概要の説明			8	中間のまとめ			
2	うたによる表現 (1) 手あそび			9	劇あそび (1) 題材について学ぶ			
3	うたによる表現 (2) わらべうたあそび			10	劇あそび (2) 表現手段について学ぶ			
4	リズムあそび (1) お手合わせ			11	劇あそび (3) 脚本づくり			
5	リズムあそび (2) ポディーパーカッション			12	劇あそび (4) 音楽づくり			
6	楽器あそび (1) 楽器づくりのための素材集め			13	劇あそび (5) 実演と意見交流			
7	楽器あそび (2) 手作り楽器によるアンサンブル			14	まとめ			
成績評価方法		課題レポート 60%, 授業への取り組み 40%						
教科書		『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省						
参考書		適宜、資料配布、紹介する。						
授業外の学習方法		次回までに前時の課題を復習しておくこと。(週1時間程度)						
免許・資格		幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	造形表現研究	戸潤幸夫	1	選必	演習		
授業の概要		保育現場に役立つように具体的に絵画遊びや工作、飾って楽しむもの、ごっこ遊びのための道具づくりや、共同制作によるダイナミックな活動など、演習を通してその支援のあり方（環境構成・導入・展開方法・助言・完成作品の展示方法）を学ぶ。また、豊かなる心を育成する教室環境として、1年を通じて壁面装飾のあり方を研究する。						
授業の目標		造形表現の基礎的内容（平面、立体表現）について実技を通して、将来保育者となる受講者自身の造形表現に関わる技能・知識や感性を高める。						
回	授業のテーマ及び内容			<u>各回 100 分</u>				
1	ガイダンス 点描画による「花の絵制作」モチーフ選択と下絵			8	プランクステラに挑戦 壁面レリーフ制作2 骨組み作り			
2	点描1 特に明暗の濃いところから点を打つ			9	プランクステラに挑戦 壁面レリーフ制作3 材料を重ね着色			
3	点描2 細部まで仕上げる 完成 相互鑑賞			10	プランクステラに挑戦 壁面レリーフ制作4 細部まで仕上げ 完成			
4	ガラス絵制作1 アイディアスケッチ			11	春のカレンダー制作			
5	ガラス絵制作2 アクリル絵の具で彩色1 下地			12	夏のカレンダー制作			
6	ガラス絵制作3 アクリル絵の具で彩色2 細部まで仕上げる 完成作品鑑賞			13	秋のカレンダー制作			
7	プランクステラに挑戦 壁面レリーフ制作1 アイディアスケッチ			14	冬のカレンダー制作			
成績評価方法		授業時の学習状況 20%, 作品評価 60%, 演習カード等 20%						
教科書		『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)文部科学省 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)厚生労働省 『幼保連携認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月)内閣府・文部科学省・厚生労働省						
参考書		担当教員が作成した演習カード 適宜、資料配布、紹介する。						
授業外の学習方法		次回までに制作の遅れを進めてくる。						
免許・資格		幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	幼保： 前期 小幼： 後期	幼児体育 I	加藤博之	1	選必	演習		
授業の概要		子どもの基礎運動技能を育むため、子どもの身体活動と運動遊びの具体的な内容について理解・習得し、保育者としての基礎的能力と実践力を身につける科目である。様々な運動遊びの実践と理論を踏まえ、個人の活動意欲に応じた適切な運動体験の援助力を養う。幼児期の体験が生涯の基礎であることの理解に立ち、運動遊びの教育的意義を理解し、体育的指導における基礎知識を深めることを目的とする。幼児期の基礎体力の理解を深め、身体活動の実践をするとともに、運動会や親子体操、幼児期のリズム体操、等、子どもの身体活動と運動遊びの意義を学習する。						
授業の目標		幼児の基礎運動技能を育むため、自らいろいろな運動遊びの実践と理論を踏まえ、個人の活動意欲に応じた適切な運動体験の援助力を養う。幼児期の体験が生涯の基礎であることの理解に立ち、体育遊びの教育的意義を理解し、体育的指導における基礎知識を深める。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション：保育の中の運動教育について、保育者の関わり方を理解する。			8	体育器具(2)：その他の体育器具(技巧台ほか)や固定遊具を使った遊びとサーキット遊びを理解する。			
2	基本的身体運動の実践：基本的な身体操作(歩、走、跳運動)の理解と正確な身体操作の練習をする。			9	水遊び(1)：水遊びの基本を理解し、実践する。			
3	組み体操の理解と実践：人の動きの観察と相手の運動に合わせる調整力を養う。			10	水遊び(2)：水上安全とプール遊びを理解し、実践する。			
4	幼児の体育遊びの実践(1)：伝承遊びの意義を理解し、実践する。			11	水遊び(3)：水遊びの教材を研究し、実践する。			
5	幼児の体育遊びの実践(2)：ゲーム遊びの意義を理解し、実践する。			12	ボール遊び(1)：基本的なボール遊びの意義を理解し、実践する。			
6	幼児の体育遊びの実践(3)：手具遊びの意義を理解し、実践する。 幼児の体育遊びの実践(4)：身近な日用品を使った遊びを実践する。			13	ボール遊び(2)：各種ボールゲームのアレンジ方法を研究し、実践する。			
7	体育器具(1)：跳び箱・マット・鉄棒・平均台を使った遊びを理解し、実践する。			14	まとめ：運動教育の考え方、体育遊びの援助の仕方を総括する。			
成績評価方法		課題レポート 60%， 課題・小テスト等 20%， 受講態度・授業への参加度 20%						
教科書		適宜資料を配布する。						
参考書		『幼児期の運動あそび—理論と実際—』 不昧堂出版(平成21年9月) 西田俊夫編著 『こうすればできるよ 子どもの運動 マット とび箱 鉄棒』ミネルヴァ書房(平成17年9月) 秋田裕子著 『幼児の運動あそびの新しい進め方』 学術図書出版(平成7年11月) 浅田隆夫編						
授業外の学習方法		週2時間程度の復習を行うこと。レポート作成の時間も確保すること。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	後期	幼児体育Ⅱ	加藤博之	1	選必	演習		
授業の概要		幼児体育Ⅰに引き続き、子どもの身体活動と運動遊びの具体的な内容を理解・習得し、保育者としての基礎的能力と実践力を身につける。幼児体育Ⅰで学んだ基礎理論を背景に、子どもの基礎的運動技能を育むための教材研究、運動遊びの指導計画の作成、模擬保育の実践、分析、評価、改善活動を通じて実践力を養う。くわえて、運動遊びにおける設備・遊具などの安全管理および安全教育に必要な知識や技能の習得を目指す。						
授業の目標		幼児の基礎運動技能を育むため、自らいろいろな運動遊びの実践と理論を踏まえ、個人の活動意欲に応じた適切な運動体験の援助力を養う。また、幼児の年齢に応じた遊びを立案発表、相互評価などの実践練習を行う。幼児期の体験が生涯の基礎であることの理解に立ち、体育遊びの教育的意義を理解し、体育的指導における応用技術を高める。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	基礎体力づくり:幼児期の基礎体力の理解を深め、身体活動の実践をする。			8	実技指導の実践練習(2):指導案を立案し、模擬指導を行う。			
2	運動会:運動会の意義を理解し、活動内容や種目を実践する。			9	実技指導の実践練習(3):指導案を立案し、模擬指導を行う。			
3	親子体操:親子体操の意義を理解し、活動内容や種目を実践する。			10	実技指導の実践練習(4):指導案を立案し、模擬指導を行う。			
4	リズム体操(1):幼児期のリズム体操の意義を理解し、グループで振付を立案する。			11	実技指導の実践練習(5):指導案を立案し、模擬指導を行う。			
5	リズム体操(2):グループで振付の修正と練習をする。			12	実技指導の実践練習(6):指導案を立案し、模擬指導を行う。			
6	リズム体操(3):発表と相互評価を行う。			13	実技指導の実践練習(7):指導案を立案し、模擬指導を行う。			
7	実技指導の実践練習(1):指導案を立案し、模擬指導を行う。			14	実技指導のまとめ:模擬指導に対する総評を行う。			
成績評価方法		課題レポート 60%, 課題・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 20%						
教科書		適宜資料を配布する。						
参考書		『手軽な用具で楽しめる体育あそび素材集』文化書房博文社(昭和51年) 佐藤和兄・畠山トミ著 『幼児の運動あそびの新しい進め方』学術図書出版(平成7年11月) 浅田隆夫編						
授業外の学習方法		週2時間程度の復習を行うこと。レポート作成の時間も確保すること。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	後期	保育の表現技術(言葉)	山本玲子	1	選必	演習		
授業の概要		言葉を獲得する基盤としての乳幼児期に、保護者と共に、子どもの最も身近にいる保育者の役割についての理解を深め、乳幼児の言葉の育ちを促すための表現・方法・技術の基本を修得する科目である。子どもにとっての言葉の意味と獲得過程を学ぶと共に、絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術、子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育環境への理解、豊かな言葉の獲得を保障し、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開手法について学ぶ。さらに、言葉を育む保育環境づくりの基礎的知識や基本的技術の修得を目指すと共に、保護者とのコミュニケーションで重要な保育者（社会人）としての言葉の教養を身につけることを目標とする。						
授業の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と絵本、紙芝居、お話等に関する知識と技術を習得する。 ・日常会話、手遊び、歌遊び、人形を使ってのお話を通じて、子どもの気持ちを動かすコミュニケーション法を身につける。 ・子どもの発達段階を踏まえて、子どもに応じた言葉かけや援助法を、具体例を通じて学ぶ。 ・子どもの遊びを豊かに展開するために、言葉の表現に関する必要な知識や技術を習得する。 ・子どもへの愛や願いを込めて、保育教材を製作したり、演じたりできるようになる。 ・保育者の思いが子どもに届くように、コミュニケーション能力を身につける。 						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション:学修内容と授業の進め方、評価方法の確認。			8	紙芝居を演じる:子どもの発達過程に即したねらいを考えて実技を行う。			
2	手作り人形の製作:人形の製作と、人形の活かし方を考える。			9	手作り人形を使って演じる:人形の動きと、話し方を意識して演じる。演技者の良いところを見つける。			
3	手作り人形の製作:人形の製作と並行して、ストーリーを考えていく。			10	手作り人形を使って演じる:人形の動きと、話し方を意識して演じる。演技者の良いところを見つける。			
4	手作り人形の製作:人形を仕上げる。お話の構想を固めていく。			11	手作り人形を使って演じる:人形の動きと話し方を意識して演じる。演技者の良いところを見つける。			
5	手遊び、歌遊びの実技:子どもの発達過程に即したねらいを考えて実技を行う。			12	手作り人形を使って演じる:人形の動きと、話し方を意識して演じる。演技者の良いところを見つける。			
6	歌遊び、伝承遊びの実技:地域性のある遊び、伝えたい遊びを実践する。			13	言葉を通じて行う教育:教育実習を終えての学びを分かち合う。保育者は子どもの言葉の先生。			
7	絵本の読み聞かせの実技:自分の心を動かされた絵本を読み聞かせる。			14	まとめ:授業を振り返り、各自の課題を確認して、学修したことを文章にまとめる。			
成績評価方法		実技 40%, 課題レポート等 40%, 授業への取り組み 20%						
教科書		適宜、資料を配布する。						
参考書		『保育内容・言葉』岸井勇雄 同文書院 『絵本から学ぶ子どもの文化』浅木尚実 同文書院						
授業外の学習方法		実技を行うので準備を行い練習しておく。課題についてのレポートを作成する。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		幼稚園教諭経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	通年	鍵盤楽器の表現技法	溝口希久生	2	選必	演習
授業の概要		鍵盤楽器演奏上級者を対象とし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要なピアノの演奏技能を高めることをねらいとする。音楽の構造と表現法の学びを深め、保育所・幼稚園・小学校において子どもの音楽表現が引き出せるような伴奏や弾き歌いの技能を高める。学生の課題や実態に適した教材と指導を行い、現場で実践できるピアノの演奏技能の習得を目指す。				
授業の目標		保育士、幼稚園教諭、小学校教諭において、子どもの音楽表現が引き出せるようなピアノ伴奏や弾き歌いの技能を習得する。音楽の理論と表現法を身に付けて、子どもの音楽表現が引き出せるような伴奏や弾き歌いができる。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	オリエンテーション(授業の概要、授業の評価、和音伴奏とは何か)			8	I IV V V7 を使った和音伴奏と移調(へ、イ長調)した伴奏付け(課題曲による演習)	
2	主要三和音(I IV V)で伴奏をつけた和音伴奏付け(課題曲による演習)			9	分散和音の伴奏付け(課題曲による演習)	
3	主要三和音とその展開形の伴奏付け(課題曲による演習)			10	分散和音伴奏で移調(ト、ニ長調)した伴奏付け(課題曲の移調)	
4	属七の和音を入れた和音の伴奏付け(課題曲による演習)			11	分散和音伴奏で移調(へ、イ長調)した伴奏付け(課題曲の移調)	
5	主要三和音で伴奏をつけた移調(ト、ニ長調)した伴奏付け(課題曲の移調)			12	短調による和音伴奏(I IV V V7)(課題曲による演習)	
6	主要三和音で伴奏をつけた移調(へ、イ長調)した伴奏付け(課題曲の移調)			13	短調の曲の和音、分散和音の伴奏付け(課題曲による演習)	
7	I IV V V7 を使った和音伴奏と移調(ト、ニ長調)した伴奏付け(課題曲による演習)			14	発表会①:課題曲に伴奏付けをした弾き歌い	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	通年	鍵盤楽器の表現技法	溝口希久生	2	選必	演習
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
15	オリエンテーション(授業の概要、授業の評価) 子どもに届く声で歌う(既習曲の弾き歌いと聴き合い)	22	拍子感 既習曲の弾き歌いと聴き合い			
16	歌いやすいテンポで歌う 既習曲の弾き歌いと聴き合い	23	クレッシエンド、デクレッシエンド 既習曲の弾き歌いと聴き合い			
17	前奏の工夫 既習曲の弾き歌いと聴き合い	24	曲に合ったフレージング、アティキュレーション 既習曲の弾き歌いと聴き合い			
18	フレージング 既習曲の弾き歌いと聴き合い	25	前奏づくり 前奏付けのポイント、既習曲を用いた演習			
19	鍵盤を見ないで弾く 既習曲の弾き歌いと聴き合い	26	後奏づくり 前奏付けのポイント、既習曲を用いた演習			
20	止まらずに弾く 既習曲の弾き歌いと聴き合い	27	イメージと音楽表現			
21	曲に合った強弱 既習曲の弾き歌いと聴き合い	28	発表会②:課題曲をイメージに応じた弾き歌い			
成績評価方法		実技試験 60%, 課題レポート・提出物 20%, 授業へ取り組む姿勢・態度 20%				
教科書		『こどものうた 100』チャイルド本社(1982年4月)小林 美実 『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館(2018年3月)文部科学省 『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館(2018年3月)厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館(2018年3月)内閣府・文部科学省・厚生労働省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋出版社(2018年2月)文部科学省				
参考書		適宜、プリント・資料を配布する。				
授業外の学習方法		授業外の練習を十分確保することが大事になる。(週3時間程度)				
免許・資格		小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格必修科目				
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態							
3	前期	子どもの保健Ⅱ	内海みよ子	1	選択	演習							
授業の概要		子どもの保健ⅠA・Bで学んだ小児保健の基礎知識を基に、子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価、子どもの疾病やその予防及び適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ科目である。子どもの健東増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考え、現代社会における心の健康問題や地域保健活動等についての理解を目指す。											
授業の目標		保育における保健的観点の活用方法を近年のデータや各種ガイドラインなど幅広い情報から理解し、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえ、さらに集団全体の健康と安全を考慮した適切な保健的対応について修得する。演習を取り入れた講義をおこなう。 1)保健的観点を踏まえた保育環境を理解し、保育的援助の具体的方法を修得する。 2)保育における衛生管理・事故予防及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。 3)子どもの体調不良時の対応や感染症対策について、具体的に理解する。 4)近年の子どもの発達・状態をデータや各種ガイドラインから理解し、保健的対応について理解する。 5)子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組や保健活動の実際について理解する。											
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分									
1	イントロダクション(シラバス持参) 子どもの健東維持・増進のための保育環境			8	保育現場での救急処置及び救急蘇生法								
2	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健東増進のための援助			9	感染症の集団発生の最近データから予防対策								
3	子ども集団全体の健康と安全・衛生管理			10	保育現場での感染症集団発生後の対応								
4	保育における事故防止及び安全対策			11	保育における保健的対応の基本的な考え方、3歳未満児への対応								
5	保育における危機管理と災害対策			12	保育現場で個別的な配慮を必要とする子どもへの対応								
6	子どもの体調不良や障害が発生した場合の対応			13	保育における保健活動への組織的取組								
7	保育現場で起こりやすい救急場面での応急処置			14	保健活動と関係機関との連携								
成績評価方法		定期試験の成績 60%, 課題・小テスト等 10%, 受講態度・授業への参加度 30%											
教科書	『改訂 保育の中の保健 幼稚園・保育所での保健指導の理論と実践』 萌文書林(平成22年11月) 巷野悟郎・高橋悦二郎編												
参考書	『子どもの保健演習』 中山書店(平成29年1月) 大西文子 『子どもの保健演習ノート』 診断と治療社(平成28年12月) 榊原 洋一、小林 美由紀												
授業外の学習方法	週1時間程度の復習及び課題作成を行うこと。 小テスト・試験対策の時間も確保すること。												
免許・資格	保育士資格必修科目												
実務経験と教授内容													

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	子どもの食と栄養 I	土井有美子	1	選択	演習		
授業の概要		子どもが心身ともに健やかに発育・発達するために必要な栄養や食生活の基本的な知識を学ぶ。望ましい食習慣の確立を含め、子どもの食生活を豊かにすることについて理解を深める。食育の基本と内容及び環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。						
授業の目標		<p>基礎的な栄養学や食生活の正しい知識を修得する。子どもを取り巻く近年の食生活の現状と問題点、発達、健康状態への影響などを理解したうえで、食生活改善のために具体的な教材作りを身につける。食育の実践的な指導方法を修得するとともに自らも望ましい食生活が実践できる。</p> <p>乳幼児期の食生活について学び、食習慣の基盤づくりを修得する。</p> <p>(1)子どもの発育・発達と食生活の関連を修得する。</p> <p>(2)特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。</p> <p>(3)保育者として、保育のなかでの食生活のもつ意義を発達段階に応じて理解する。</p>						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	子どもの健康と食生活の意義 :子どもの食生活の特徴			8	子どもの発育・発達と栄養生理			
2	「食」に関する指針など : 保育所に求められるもの			9	子どもの発育・発達と食生活 I : 授乳期の意義と食生活、母乳の重要性			
3	栄養と食品の基礎知識 I : 栄養と栄養素			10	子どもの発育・発達と食生活 II : 離乳期の意義と食生活			
4	栄養と食品の基礎知識 II : 食品の基礎知識、食品成分表の使用法、調理の基本			11	調乳・離乳食 : 調乳方法と市販の離乳食(テクスチャ一等)			
5	健全な食生活のための指標 I : 日本人の食事摂取基準、食生活指針			12	離乳食立案 : 离乳開始から完了期まで			
6	健全な食生活のための指標II: 食事バランスガイド			13	子どもの発育・発達と食生活III : 幼児期の意義と食生活			
7	自身の食生活評価 : 食事バランスガイドによる自己診断と自己評価			14	手作り離乳食の検討 : グループワーク			
成績評価方法		定期試験の成績 60%, 課題・小テスト等 30%, 受講態度・授業への参加度 10%						
教科書		『子どもの食と栄養演習 第5版』建帛社 小川雄二(編著) 『新食品成分表 FOODS』とうほう出版 新食品成分表編集委員会編						
参考書		『最新 子どもの食と栄養』学建書院 飯塚美和子他(編) 『保育所の食事を通して食育を』学建書院 亀城和子他(著)						
授業外の学習方法		次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。 日ごろから自身の食生活だけでなく周りの人々の食と健康に興味をもつこと。 子どもの食事や食育等に関する情報に关心をもつこと。 上記内容を週1時間程度行うこと。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態			
3	後期	子どもの食と栄養Ⅱ	土井有美子	1	選択	演習			
授業の概要		子どもの食と栄養Ⅰに引き続き、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についての理解を目指す。							
授業の目標		<p>基礎的な栄養学や食生活の正しい知識を修得する。子どもを取り巻く近年の食生活の現状と問題点、発達、健康状態への影響などを理解したうえで、食生活改善のために具体的な教材作りを身につける。食育の実践的な指導方法を修得するとともに自らも望ましい食生活が実践できる。</p> <p>乳幼児期の食生活について学び、食習慣の基盤づくりを修得する。</p> <p>(1)子どもの発育・発達と食生活の関連を修得する。</p> <p>(2)特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。</p> <p>(3)保育者として、保育のなかでの食生活のもつ意義を発達段階に応じて理解する。</p>							
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分					
1	幼児期の間食:間食の意義、間食(案)づくりと検討		8	食育の立案と作成:テーマ、食教育媒体作成					
2	幼児期の弁当:弁当の条件、立案(献立作成)		9	年間食育指導計画の作成					
3	幼児期の弁当レシピづくり:調味パーセント、地元産食材使用		10	家庭への周知:食育だよりの計画、作成					
4	幼児期の手作り弁当づくり:栄養価計算		11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養					
5	幼児期の手作り弁当検討:グループワーク		12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養:食事形態・食器具・食事援助の対応					
6	学童期・思春期等の栄養と食生活:現状と問題点、望ましい食育		13	教材発表とロールプレイング:食教材、手作り弁当					
7	食育の基本と内容:保育所及び家庭における事例		14	緊急時、災害時の対応まとめ					
成績評価方法		定期試験の成績 50%, 課題・小テスト等 40%, 受講態度・授業への参加度 10%							
教科書		『子どもの食と栄養演習 第5版』建帛社 小川雄二(編著) 『新食品成分表 FOODS』とうほう出版 新食品成分表編集委員会編							
参考書		『最新 子どもの食と栄養』学建書院 飯塚美和子他(編) 『保育所の食事を通して食育を』学建書院 亀城和子他(著)							
授業外の学習方法		次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。 日ごろから自身の食生活だけでなく周りの人々の食と健康に興味をもつこと。 子どもの食事や食育等に関する情報に关心をもつこと。 上記内容を週1時間程度行うこと。							
免許・資格		保育士資格必修科目							
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当							

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	特別支援教育・保育 I	村上凡子	1	必修	演習		
授業の概要		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解をねらいとする科目である。在籍する学級を問わず、障害のある幼児、児童及び生徒への教育・保育を進める特別支援教育の理念、その制度についてインクルーシブ教育の観点と照らし合わせながら学ぶ。さらに、個別の教育的支援ニーズに応じた支援の原則や方針を理解できるよう、障がいの種別や各々の障がいについて、身体の発達、心理的・行動的特性及び学習の過程を理解する。						
授業の目標		授業の目標は、 1)インクルーシブ教育・保育の理念を含めた特別支援教育と保育の理念や法令、制度を理解していること 2)発達障害や様々な障害(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱等)のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けていること 3)発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解していること、の3点である。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	「障害」の概念及び特別支援教育と保育の制度、理念			8	注意欠如・多動性障害児の学習過程と支援の原則			
2	インクルーシブ教育及び保育と、特別支援教育との関連性			9	自閉症スペクトラム障害児の心理的・行動的特性			
3	軽度の知的障害の特性と学習への支援			10	自閉症スペクトラム障害児の学習過程と支援の原則			
4	知的障害児の特性に応じた学習過程と支援の原則			11	視覚障害児における学習上及び生活上の困難と支援の原則			
5	学習障害児の心理的・行動的特性			12	聴覚障害児における学習上及び生活上の困難と支援の原則			
6	学習障害児の特性に応じた学習過程と支援の原則			13	肢体不自由・病弱児における学習上及び生活上の困難と支援の原則			
7	注意欠如・多動性障害児の心理的・行動的特性			14	まとめ 特別支援教育の理念に基づいた特別の支援ニーズのある幼児、児童及び生徒の理解			
成績評価方法		定期試験 70%, 小テスト 20%, 復習シート 10%						
教科書		『特別支援教育総論』北大路書房(平成28年10月) 川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著						
参考書		適宜、資料を配布する。						
授業外の学習方法		1週間に1時間程度の予習を課す。次回に行われる教科書の内容を事前に読み、要点の抜き書きや、自分なりの意見・感想をノートに記す。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	後期	特別支援教育・保育Ⅱ	村上凡子	1	必修	演習		
授業の概要		<p>「特別支援教育・保育Ⅰ」で修得したことに基づいて、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について理解することを目的とする科目である。教育課程の理解のもと、個別の指導計画・保育計画、個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解するために、事例分析に基づいた個別の指導計画の策定の演習を取り入れる。幼・保・小の連携、医療、福祉等の他機関との連携の在り方を理解する。多様な特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性について理解するために実践例を通して学ぶ。</p>						
授業の目標		<p>授業の目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達障害、軽度の知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法について原則を理解すること 2) 障害はないが社会経済的要因、母語が日本語ではないなどの学習上の要因を含む多様な要因から生じる教育的ニーズを理解し、校内外の社会的資源の活用を含めて、適切な対応について理解すること の2点である。 						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	軽度知的障害児の特性に応じた支援方法			8	「通級による指導」の教育課程上の位置づけ内容と方法			
2	注意欠如・多動性障害の特性に応じた支援の原則			9	校内の組織的対応、医療・福祉等外部機関との連携—事例研究を通して—			
3	保育、教育場面における注意欠如・多動性障害児とその保護者への支援—事例研究を通して—			10	発達障害児が不登校・不登園になるのを予防するための園・学校の組織的な対応			
4	自閉症スペクトラム障害の理解と支援の原則			11	個別の指導計画作成の意義と方法			
5	保育、教育場面における自閉症スペクトラム障害児とその保護者への支援—事例研究を通して—			12	個別の教育支援計画作成の意義と方法			
6	学習障害の支援—通常の学級におけるユニバーサルデザインの実践を中心にして—			13	母語が日本語ではないことから生じる支援ニーズへの支援			
7	障害のある子どもたちを対象とした「自立活動」の教育課程上の位置づけ、内容と方法			14	社会経済的要因により生じる支援ニーズの理解と対応			
成績評価方法		定期試験 70%, 小テスト 20%, 復習シート 10%						
教科書		『特別支援教育総論』北大路書房(平成28年10月) 川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著						
参考書		適宜、資料を配布する。						
授業外の学習方法		1週間に1時間程度、次回の予習を課す。課題：資料や教科書の内容について要点の抜き書きや意見・感想を書く。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	社会的養護内容	衣斐哲臣	1	選択	演習		
授業の概要		社会的養護における児童の権利擁護や保育士の倫理について、施設養護及び他の社会的養護の実際を通して具体的に学ぶ科目である。個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について学ぶ。また、ケース演習等を通して社会的養護にかかわる支援者の役割や支援の方法について理解し、子どもと家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。						
授業の目標		虐待により親と一緒に家庭で暮らすことが困難な子どもが増え、セーフティ機能としての社会的養護がますます重要な役割となってきている。保育士もその一翼を担う専門職である。虐待ケースの増大や死亡事例の報道により、社会全体で子どもを虐待から守ろうとする動きは高まり、法制度の改革もめまぐるしくなされてきている。その社会的背景と同時に、家庭養護あるいは施設養護を支える里親や施設など社会的養護の実際を知り、そこで生活する子どもたちを理解し、子どもたちの最善の利益をめざした支援を行う視点やアプローチ法を学ぶ。 そのためにケーススタディなどの演習を多く行い、現場で役立つ実践的な対人援助センスと技術を身につけられるように取り組む。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション 社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み① 社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み② ケース演習①			8	施設における支援の実際② ケース演習⑦			
2	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利① ケース演習②			9	社会的養護にかかわる相談支援① ケース演習⑧			
3	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利② ケース演習③			10	社会的養護にかかわる相談支援② ケース演習⑨			
4	社会的養護にかかわる保育士の役割① ケース演習④			11	社会的養護にかかわる相談支援③ ケース演習⑩			
5	社会的養護にかかわる保育士の役割② ケース演習⑤			12	記録および評価① ケース演習⑪			
6	社会的養護における支援の実際① ケース演習⑥			13	社会的養護実践における課題と展望 ケース演習⑫			
7	社会的養護における支援の実際② ケース演習⑦			14	ケース演習⑬とまとめ			
成績評価方法		定期試験の成績 60%, 授業コメント・授業への自我関与度 40%						
教科書		『演習・保育と社会的養護実践: 社会的養護Ⅱ』 みらい 橋本好市・原田旬哉編集						
参考書		適宜、資料を配布する						
授業外の学習方法		教科書を予習・復習に読む。社会的養護に関する報道ニュースや文献に関心をもって読む。以上の内容を週1時間程度行うこと。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	相談援助	森下順子	1	選択	演習		
授業の概要		保育の現場では、育児不安、DV や児童虐待のリスク、精神疾患などの困難を抱える保護者と関わることが少なくない。そのため、保育現場におけるソーシャルワークの理論と方法を学ぶ必要がある。相談援助の理論や意義、相談援助・保育とソーシャルワークについて理解を深めるとともに、相談援助の方法と技術の修得を目指す。さらに、相談援助の具体的な展開について学び、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。						
授業の目標		相談援助の概要、相談援助の方法と技術、及び具体的な展開について理解する。保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象者への理解を深め実践力を身に付ける。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション・相談援助の理論と意義			8	相談援助の具体的な展開 I (計画・記録・評価) 事例検討			
2	保育における相談援助と子育て支援			9	相談援助の具体的な展開 II (関係機関・専門職との連携) 事例検討			
3	相談援助の機能と役割			10	虐待の予防と対応・発達障害の子どもをもつ保護者への支援			
4	相談援助とソーシャルワーク			11	実習体験より、専門職としての役割を深める			
5	相談援助の体系(直接援助技術と間接援助技術)			12	社会資源の活用について I (理解と検討・グループワーク)			
6	相談援助の基本的な技術と原則・心得			13	社会資源の活用について II (関係機関の開発と連携・グループワーク)			
7	面接活動とコミュニケーション技術			14	まとめ			
成績評価方法		定期試験 60%, 課題レポート 10%, 授業への取り組み 30%						
教科書		適宜、資料を配布する						
参考書		『保育所保育指針<平成29年告示>』 フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『子どもの生活を支える相談援助』 ミネルヴァ書房(平成27年4月) 田中利則・小野澤昇・大塚良一						
授業外の学習方法		各講義終了後には学習内容を復習すること。課題やレポート作成の時間を確保すること(週 2 時間程度)。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		実務経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	教育相談支援	村上凡子	2	必修	講義		
授業の概要		教育相談は、児童及び生徒が自己理解、他者理解を深め、集団の中で個性の伸長、人格の成長を達成できるよう、心理学が積み上げてきた対人援助に関する基礎的理論及び方法を身に付けることをねらいとしている。このねらいを達成するために必要な各発達段階と発達課題、カウンセリングの技法等に関する基本的な事項を実践的に学ぶ。教育相談には、いじめ、不登校、虐待といった困難な状態を解決する個への問題解決機能、問題の予防を図るための集団を対象とした開発的機能などがある。学校がこうした機能を発揮するために主導的な役割を果たしながら、他職種、他機関と連携し、「チーム学校」の理念を学校場面で実践化する過程を事例に照らして検討する。						
授業の目標		授業の目標は、 1) 教育相談領域に関する現代の課題を確認し、教育相談の意義について理解すること、 2) 児童生徒理解のためのカウンセリング理論を基盤にした基礎的知識を習得し、カウンセリングの技法、個と集団双方に対する対人援助法の実践力を高めること 3) 教育相談が計画に基づいて校内で組織的に展開するよう、校内体制の整備、他機関等の連携の必要性を理解すること の3点である。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	教育相談の意義と3つの機能			8	教育相談の組織的体制と教育相談計画の立て方			
2	教育相談の基本的対人態度とカウンセリング技法			9	いじめに関する基礎的理論			
3	児童生徒理解のための心理検査を用いた評価方法			10	いじめへの対応の原則			
4	受容・共感能力、自己表現力を高めるための対人援助法			11	不登園・不登校、非行への対応			
5	集団を対象とした人間関係づくりのための実践的方法			12	児童虐待に関する基礎的理論			
6	感情のコントロール力及び自己調整力向上のための対人援助法			13	被虐待児への対応			
7	発達障がいに関する基礎的理解と対応の原則			14	教育相談における保護者対応			
成績評価方法		定期試験 70%, 小テスト 20%, 予習復習ノート 10%						
教科書		『新訂版 教育相談 基礎の基礎』 学事出版 嶋崎政男						
参考書		『いじめとは何か—教育の問題、社会の問題』 中央公論社(平成22年7月) 森田洋司著						
授業外の学習方法		次回に行われる教科書の内容を事前に読み要点の抜き書きや意見を記述しておく。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	後期	地域と子育て支援	森下順子	2	選択	講義		
授業の概要		子どもが育つ環境も保護者が子育てる環境も、危機的な状況にあり、保育者は中心的な子育て支援者として期待が寄せられている。本科目では、地域と家庭の双方を視野に入れた専門性と多様性を理解する。例えば、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携などについて様々な観点から深める。さらに、和歌山市や和歌山県内の施設と連携して、フィールドワークなどを実施して実践力を身につける。						
授業の目標		地域や家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携等について理解する。さらに保育者として、豊かな子どもの育ちのために、地域連携の重要性、家庭や保護者のニーズに応じた支援の展開について深め実践につながる基礎を培う。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	家庭支援の意義と役割(1)家庭の意義、家庭支援の歴史			8	子育て家庭への支援体制(3)子育て支援施策の実際について			
2	家庭支援の意義と役割(2)家庭支援の必要性と支援の原理			9	多様な支援の展開と関係機関との連携(1)通園児の家庭への支援			
3	地域社会と子育ての現状と課題			10	多様な支援の展開と関係機関との連携(2)地域の子育て家庭への支援体制と実際			
4	子育て支援者と子育て当事者の実際			11	多様な支援の展開と関係機関との連携(3)気になる子どもと保護者支援			
5	男女共同参画社会とワークライフバランス			12	多様な支援の展開と関係機関との連携(4)子育て支援における関係機関との連携と実際			
6	子育て家庭への支援体制(1)子育て家庭への社会的資源について概論			13	子育て支援におけるネットワークの可能性			
7	子育て家庭への支援体制(2)和歌山県の子育て家庭への社会的資源について			14	家庭支援における専門性、まとめ			
成績評価方法		定期試験 70%, 課題レポート 20%, 授業への取り組み 10%						
教科書		『子育ち・子育て支援学』保育出版社(平成26年7月) 寺見陽子編者						
参考書		『幼稚園教育要領<平成29年告示>』東洋館出版(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『みんなでつくる子育て支援 上越市マミーズ・ネットの挑戦』子どもの未来社(2010年4月) 金山美和子他						
授業外の学習方法		配布資料や教科書で1週間に2時間程度、予習復習をする。子どもや家庭を取り巻く時事問題について考える。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		実務経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	後期	保育相談支援	森下順子	1	選択	演習
授業の概要		保育者の業務として必要な保護者支援・地域子育て支援・特別な支援が必要な子どもをもつ保護者などに対する相談支援についての専門的知識を学び、その意義や支援方法などを学ぶ科目である。保育相談支援の意義と原則、保護者支援の基本、保育相談支援、地域の子育て支援の実際を学び、内容や方法を理解する。また、保育所等児童福祉施設における保護者支援や地域における子育て支援の具体的な事例を学ぶことで、保育現場における保護者支援のあり方や地域との連携についての具体的理解を目指す。				
授業の目標		保育相談支援の意義と原則について理解する。保護者支援の基本を理解する。さまざまな児童福祉施設における保護者支援の具体的展開について理解を深める。				
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分	
1	オリエンテーション・保護者に対する保育相談支援の意義				8	児童福祉施設における相談支援の検討
2	保育の特性と保育士の専門性を生かした支援				9	児童福祉施設における保育相談支援の実際（現場経験者による講義）
3	保育相談支援の基本Ⅰ（子どもの最善の利益のための連携機関と協力体制の実際）				10	保育所における保育相談支援（児童虐待・発達障害のある子どもと保護者への支援事例検討）
4	保育相談支援の基本Ⅱ（保護者支援の方法と技術 保護者のエンパワメント）				11	保育所における保育相談支援（育児不安の強い保護者・苦情対応への支援事例検討）
5	保育相談支援の基本Ⅲ（保護者支援の方法と技術、信頼関係の構築・自己決定と秘密保持）				12	保育相談支援の計画・記録・評価・カンファレンス
6	保育所以外の児童福祉施設における保育相談支援				13	保育相談支援の事例を通して支援計画を作成・検討
7	児童福祉施設における相談支援の課題				14	まとめ
成績評価方法		定期試験 60%, 課題レポート 10%, 授業への取り組み 30%				
教科書		『保育相談支援』北大路書房(令和元年2月) 福丸由佳・安藤智子・無藤隆				
参考書		『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『住民主体の地域子育て支援』明石書店(平成25年2月) 山縣文治 『保育者の保護者支援』フレーベル館(平成22年11月) 柏女靈峰・橋本真紀				
授業外の学習方法		授業内容を教科書や配布資料などで1週間に2時間程度の予習復習をする。				
免許・資格		保育士資格必修科目				
実務経験と教授内容		実務・保育経験者が全ての回を担当				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	前期	生徒指導・進路指導の理論と方法	犬塚文雄 岸田正幸	2	選択	講義
授業の概要		学校教育における生徒指導と進路指導及びキャリア教育の理論と方法を学ぶ科目である。生徒指導の理念と理論について、様々な生徒指導の事例と課題について具体的に検証する。また、「あり方・生き方指導」を基本理念とする進路指導についてそのあり方を学ぶとともに、ガイダンスやカウンセリングとしてのキャリア教育、学校の教育活動全体の中で展開するキャリア教育の指導のあり方について検証する。				
授業の目標		生徒指導・進路指導の意義と適切な生徒理解に則る指導の理念を理解し、クラス、学校全体で取り組む指導のあり方を様々な事例に即して、全体指導や個別指導カウンセリング等も踏まえて「人間としてのあり方生き方」に則る「生きる力」を育成する指導のあり方を検証する。また、生徒自らのあり方・生き方を踏まえ、将来の進路意識の成熟を図ることで、キャリア意識の向上をガイダンスとカウンセリングを通して育成する指導のあり方について、各教科をはじめあらゆる教育活動の中で、総合的に育む指導のあり方を検証する。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	生徒指導の意義と原理 生徒指導の意義や教育課程における生徒指導の位置付け、集団指導・個別指導の方法原理などについて学ぶ。(犬塚文雄)			8	生徒指導の実際Ⅱ いじめや不登校、児童虐待について、その定義、構造、心理、対応、解決の方法を、具体例を通して学ぶ。(犬塚文雄)	
2	教育課程と生徒指導 各教科、道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間の中での生徒指導の意義を学ぶ。(犬塚文雄)			9	学校・家庭・地域・関係機関の連携 学校が家庭・地域・関係機関と連携して生徒指導を行う意義と連携の在り方について学ぶ。(犬塚文雄)	
3	児童生徒の心理と児童生徒理解 児童生徒理解の基本となる児童期・青年期の心理と発達を学ぶと共に、児童生徒理解のための資料とその収集法について学ぶ。(犬塚文雄)			10	進路指導及びキャリア教育の意義と理論 「あり方・生き方指導」を基本理念とする進路指導及びキャリア教育への理解を深めると共に、教育課程におけるキャリア教育の視点と指導の在り方、組織的な指導体制、家庭や関係機関との連携内容について学ぶ。(岸田正幸)	
4	学校における体制 学校における生徒指導の体制と組織を理解すると共に、指導計画の意義と作成法、評価と改善の視点について学ぶ。(犬塚文雄)			11	キャリア教育の視点に立つカリキュラム・マネジメントとガイダンス機能 子どもの人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の涵養を目的とする、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントとガイダンス機能を生かしたキャリア教育について理解を深める。(岸田正幸)	
5	教育相談体制 教育相談の意義と体制の構築方法についての理解を深めると共に、教育相談の進め方や専門機関等との連携、生徒指導体制との違いについて学ぶ。(犬塚文雄)			12	カウンセリングとしての進路指導及びキャリア教育ポートフォリオの活用した自己評価の意義やキャリア・カウンセリングの基礎と実践方法について学ぶ。(岸田正幸)	
6	生徒指導の基本的視点と留意点 生徒指導における教職員の役割や学級担任・教科担任の指導内容、基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、子どもの安全、生徒指導に関する法制度について、その基本的視点と留意点を学ぶ。(犬塚文雄)			13	キャリア教育の実践Ⅰ(教科)教科を中心に、学校の教育活動全体を通したキャリア教育の実践例を通して、実践のポイントを学ぶ。(岸田正幸)	
7	生徒指導の実際Ⅰ 発達障害や喫煙・薬物、非行、暴力、インターネット、生命尊重にまつわる問題について、その構造、心理、対応、解決の方法を、具体例を通して学ぶ。(犬塚文雄)			14	キャリア教育の実践Ⅱ(教科以外の活動) 教科以外の活動を中心に、学校の教育活動全体を通したキャリア教育の実践例を通して、実践のポイントを学ぶ。(岸田正幸)	

成績評価方法	定期試験の成績 80%, 確認小テスト・発表 20%
教科書	毎回、授業内容のレジュメと資料を配布する。
参考書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『生徒指導提要』(平成22年3月) 文部科学省 『小学校キャリア教育の手引き』(平成23年5月 文部科学省)
授業外の学習方法	授業内で配布される資料の復習を行うこと。
免許・資格	小学校教諭免許必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	前期	保育内容の指導法Ⅱ	山下悦子	2	必修	演習
授業の概要		幼児の認識や思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を学ぶと共に、保育の構想や指導案の作成を学ぶ。具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む能力の習得を目指す。				
授業の目標		1)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 2)各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 4)各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。				
回	授業のテーマ及び内容				<u>各回 200 分</u>	
1	イントロダクション グループに分かれて学習計画を策定する。 2年次の実習を振り返り、幼児の姿を具体的に想定したクラス案を策定する。				領域「環境」に関する教育・保育の動向 映像資料や事例を基に、伝統的遊びや科学遊び、草花遊び、飼育・栽培活動など、領域「環境」の具体的活動や行事の実際について学ぶ。 グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。	
2	領域「言葉」に関する教育・保育の動向 絵本や物語、紙芝居など児童文化に触れ、体験することで、幼児にとっての意義を考える。 映像資料や事例を通して、言葉に対する感覚を豊かにする活動の実際について学ぶ。 グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。				教育・保育の計画 事例を基に、教育・保育の計画の重要性と構成について学ぶ。 グループに分かれて、中長期の教育・保育計画を策定する。	
3	領域「人間関係」に関する教育・保育の動向 映像資料や事例を通して、クラスの中での人間関係における個と集団の育ち、協同性を育む活動や遊び野展開、地域の多様な人たちとの関わりの実際について学ぶ。 グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。				指導計画案の作成 指導計画案の構成と作成のポイントについて学ぶ。 グループに分かれ、中長期の計画と幼児の姿に基づく、指導計画案を作成する。	
4	領域「健康」に関する教育・保育の動向 映像資料や事例を通して、幼児の健康に関する教育・保育実践の動向を学ぶ。 グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。				模擬保育と振り返り：テーマ『言葉』 代表グループにより模擬保育を行う。 撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。	
5	領域「表現」に関する教育・保育の動向 映像資料や事例を基に、幼児の協同的、創造的な表現を育む国内外の様々な表現活動の動向について学ぶ。 グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。				模擬保育と振り返り：テーマ『人間関係』 代表グループにより模擬保育を行う。 撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。	

11	模擬保育と振り返り:テーマ『健康』 代表グループにより模擬保育を行う。 撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。	13	模擬保育と振り返り:テーマ『環境』 代表グループにより模擬保育を行う。 撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。
12	模擬保育と振り返り:テーマ『表現』 代表グループにより模擬保育を行う。 撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。	14	指導計画案の発表・まとめ 改善案を基に修正した指導計画案を発表し、意見交流を図る。 授業全体を振り返り、今後の学修課題を考える。
成績評価方法		模擬保育の内容 40%, 指導計画案 30%, 授業へ取り組む姿勢・態度 30%	
教科書		適宜、資料を配布する。	
参考書		『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
授業外の学習方法		1週間に2時間程度の予習・復習等を行うこと。	
免許・資格		幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目	
実務経験と教授内容		幼稚園教諭経験者が全ての回を担当	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	初等教科教育法(算数)	山本紀代	2	選択	講義		
授業の概要		小学校教員として、算数科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」などの指導領域ごとに、教材研究の仕方、ICTの活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、算数科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。						
授業の目標		算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連した理解を深め、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目標とする。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	学習指導要領①ー目標と学習内容			8	教材研究⑥ーICTの活用			
2	学習指導要領②ー指導上の留意点と評価			9	授業実践①ー授業設計と学習指導案作成			
3	教材研究①ー数と計算			10	授業実践②ー模擬授業と省察 (数と計算)			
4	教材研究②ー図形			11	授業実践③ー模擬授業と省察 (図形)			
5	教材研究③ー測定			12	授業実践④ー模擬授業と省察 (測定)			
6	教材研究④ー変化と関係			13	授業実践⑤ー模擬授業と省察 (変化と関係)			
7	教材研究⑤ーデータの活用			14	授業実践⑥ー模擬授業と省察 (データの活用)			
成績評価方法		定期試験 50%, 課題レポート 30%, 授業への取り組み 20%						
教科書		適宜、資料を配布する						
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 日本文教出版(2018年2月) 文部科学省 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』 フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 算数、数学の各社検定教科書						
授業外の学習方法		授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。授業内容に関する調査・考察を含め週1時間程度の自主学習。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態			
3	前期	初等教科教育法(社会)	西端幸信	2	選択	講義			
授業の概要		小学校教員として、社会科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「地域環境」「地理学習」「歴史学習」などの内容ごとに、教材研究の仕方、ICTの活用、目的と指導事項を明確にした单元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、社会科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。							
授業の目標		1. 社会科の学習指導方法と教材研究の方法について理解する。 2. 学習指導案を作成し、模擬授業を通して具体的な授業イメージを構想する。							
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分					
1	社会科で何を教え、どのような子どもを育てるか		8	第3学年の内容の模擬授業と、発問・指示の検討					
2	日露戦争を教える		9	第4学年の内容の模擬授業と、発問、指示の検討					
3	社会科授業の実際と検討		10	教材研究(ICTの活用含む)と社会科学習指導案の検討②(第5学年)					
4	社会的事象・歴史的事象へのアプローチの視点		11	第5学年の内容の模擬授業と、発問・指示の検討					
5	社会科教材の論点・争点を巡る授業づくり		12	教材研究(ICTの活用含む)と社会科学習指導案の検討③(第6学年)					
6	学習指導案作成の要点と模擬授業の計画		13	第6学年の内容の模擬授業と、発問・指示の検討					
7	教材研究(ICTの活用含む)と社会科学習指導案の検討①(中学年)		14	小学校社会科学習指導の今後と課題					
成績評価方法		定期試験の成績 50%, 授業後のレポート及び作成した指導案 50%							
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版(2018年2月) 文部科学省							
参考書		適宜、指示する。							
授業外の学習方法		週2時間程度の復習及びレポート・指導案作成を行うこと。 試験対策の時間も確保すること。							
免許・資格		小学校教諭免許必修科目							
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当							

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	初等教科教育法(理科)	秋吉博之	2	選択	講義		
授業の概要		理科の目標、教育評価、安全指導など小学校理科学習の基礎的事項を踏まえて、実際に理科学習指導案を作成させる。次いで作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行わせる。模擬授業の実践を通して、観察・実験を生かした授業を展開していくための知識や技術の基礎を身につけさせる。						
授業の目標		小学校学習指導要領で示された内容構成を理解し、主体的・対話的で深い学びを実践するための理科の授業づくりの手法について学ぶ。具体的には、各单元学習を踏まえ、学習指導案の作成、板書計画の作成、ワークシートの作成等について学ぶ。これらを基に教材を作成し、模擬授業を実施し、授業記録を基に学習指導を振り返り、評価し、実践的指導力を体得する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション、学習指導案の書き方			8	指導計画の作成と理科授業づくり(1)指導計画			
2	小学校学習指導要領の変遷、理科の目標			9	指導計画の作成と理科授業づくり(2)教材作成(ICTの活用含む)			
3	理科学習と評価(1) 評価の方法			10	模擬授業:小学校理科 3 年生			
4	理科学習と評価(2) 理科の授業と評価			11	模擬授業:小学校理科 4 年生			
5	理科学習と環境教育			12	模擬授業:小学校理科 5 年生			
6	野外活動の方法			13	模擬授業:小学校理科 6 年生			
7	理科の安全指導			14	小学校理科の教育課題			
成績評価方法	課題レポート 50%, 理科学習指導案の作成 20%, 模擬授業への取り組み 20%, 授業への取り組み 10%							
教科書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『理科教育法 第3版』大学教育出版(2018年10月) 秋吉博之編著							
参考書	小学校理科検定教科書(東京書籍、啓林館、大日本図書、学校図書、教育出版、信濃教育会出版部)							
授業外の学習方法	次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。							
免許・資格	小学校教諭免許必修科目							
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当							

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	前期	初等教科教育法(英語)	辻伸幸	2	選択	講義
授業の概要		小学校教員として、外国語活動・外国語の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。外国語活動・外国語に係る背景知識である外国語教育導入の経緯と現状、学習指導要領、小・中・高等学校の系統性、第二言語習得、主教材、多様な学習活動、児童や学校の多様性への対応等について理解を深めると共に、授業実施に必要な基本的で実戦的な指導技術や授業設計力、授業実践力を身に付ける。ペアワークやグループワークなどの協働学習を導入し主体的、対話的に学んでいく。また、実践的な授業立案力と授業実践力を身に付けるために授業観察、授業体験、模擬授業を組み入れていく。個人やグループでの学びの振り返りを行い到達目標の達成状況や課題の発見等も行っていく。				
授業の目標		小学校における外国語活動・外国語に係る基本的な背景知識を理解し、それらを生かした実践的な指導技術、授業設計力、授業実践力を身に付ける。				
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分	
1	オリエンテーション、小学校外国語教育授業概要、学習指導要領				8	読む・書くことの指導
2	単元・授業構成、教科書や教材、学習指導案				9	指導技術と授業設計 4(外国語導入)
3	Small Talk、聞く・話すことの指導				10	指導技術と授業設計 5(外国語展開)
4	指導技術と授業設計 1(外国語活動導入)				11	指導技術と授業設計 6(外国語まとめ)
5	指導技術と授業設計 2(外国語活動展開)				12	模擬授業 2(外国語授業)
6	指導技術と授業設計 3(外国語活動まとめ)				13	小学校外国語教育導入の経緯、小中高の系統性、児童や学校・地域の多様性、諸外国の小学校外国語教育
7	模擬授業 1(外国語活動)				14	授業実践に必要な知識・技能獲得に向けて
成績評価方法		定期試験 30%, 課題レポート 30%, 授業への取り組み 40%				
教科書		『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のためにー「コアカリキュラムに沿ってー』mpi 松香フォニックス(2017年12月) 小川隆夫・東仁美(著) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省				
参考書		なし				
授業外の学習方法		毎回のミニテストの準備をしっかり行う。1週間に2時間程度の予習・復習を行う。				
免許・資格		小学校教諭免許必修科目				
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	初等教科教育法(家庭)	中根真富	1	選択	演習		
授業の概要		小学校教員として、家庭科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」などの指導領域ごとに、子どもの生活実態や生活課題に根ざした教材研究の仕方、家庭科技術の習得、ICTの活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、家庭科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。						
授業の目標		小学校家庭科についてこれまでの教育方法を問い合わせし、一人ひとりに生きる力を身につけさせる指導方法について学ぶ。そのための題材構成や教材の工夫・開発を通して小学校教員における家庭科指導の資質を養う。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	ガイダンス・小学校における家庭科教育について			8	教材研究④ B衣食住の生活(3) 調理実習(茹でる・味噌汁・炊飯)の扱い方			
2	家庭科の学習指導について① 小学校の家庭科と学習指導要領			9	教材研究⑤ B衣食住の生活(4) 衣服の着用と手入れ			
3	家庭科の学習指導について② 小学校教科書の分析(デジタル教科書を含む)			10	教材研究⑥ B衣食住の生活(5) 生活に役立つ物の製作			
4	年間計画と指導案(ICTの活用含む)			11	教材研究⑦ B衣食住の生活(6) 製作実習(手縫い・ミシン縫い)の扱い方			
5	教材研究① A家族・家庭生活			12	教材研究⑧ B衣食住の生活(7) 快適な住まい方			
6	教材研究② B衣食住の生活(1) 食事の役割化栄養			13	教材研究⑨ C消費生活・環境			
7	教材研究③ B衣食住の生活(2) 調理技能			14	一人ひとりに生きる力を身につけさせる指導方法について(まとめ)			
成績評価方法		定期試験の成績 60%, レポート 40%						
教科書		<p>『小学校家庭科の授業をつくる—理論・実践の基礎知識』 学術図書出版社 中西 雪夫/小林 久美/貴志 倫子【共編】</p> <p>小学校検定教科書『わたしたちの家庭科 5・6』 開隆堂(2019年2月) 鳴海多恵子、石井克枝、堀内かおる 著作者代表</p> <p>小学校検定教科書『新しい家庭 5・6』令和2年度版 東京書籍 浜島京子、岡陽子 編集者代表</p> <p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省</p> <p>『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省</p>						
参考書		適宜、資料を配布する。						
授業外の学習方法		週1時間程度の復習及び予習を行うこと。 定期試験対策、及びレポート作成の時間も確保すること。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	前期	道徳教育指導論	福田光男	2	選択	講義		
授業の概要		道徳教育及び道徳科の特質や内容について理解を深め、よりよく生きるために基盤となる道徳性を養う指導のあり方について理論と実践の両面から学んでいく科目である。学校教育における道徳教育の目標と内容、道徳性の発達と評価に関する基礎的理論、学校における道徳教育及び「特別の教科 道徳」の内容と進め方について理解を深めると共に、学習指導案の作成の仕方及び授業の進め方等、基本的な指導技術習得を目指す。さらに、子どもたちの生活意識や行動に見られる現代的問題を、道徳性の発達の視点から解明し、その克服と子どもたちの自立のための道徳教育のあり方を検討・考察する。						
授業の目標		小学校学習指導要領を踏まえ、豊かな心を養いよりよく生きるための資質・能力を培う道徳の意義・原理を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法について理解する。						
回	授業のテーマ及び内容				<u>各回 100 分</u>			
1	「特別の教科 道徳」について				8 学校における道徳教育の指導計画とよりよい学校生活:集団生活と人間関係の深まり			
2	道徳教育の歴史と課題、子どもの豊かな心と道徳性を養うための道徳教育				9 道徳科における支援と学習評価の在り方について			
3	学習指導要領の目標と主な内容と教材(1)主として自分自身に関すること				10 各教育活動で養われた道徳性が調和的に生きる:全教育活動の要、補充・深化・統合			
4	学習指導要領の目標と主な内容と教材(2)主として人との関わりに関すること				11 道徳科の学習指導案づくり			
5	学習指導要領の目標と主な内容と教材(3)主として集団や社会との関わりに関すること				12 道徳科の学習指導案づくりと模擬授業について			
6	学習指導要領の目標と主な内容と教材(4)主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること				13 模擬授業と振り返りについて			
7	道徳科の時間の学習・指導過程と学習・指導方法の工夫について				14 子どもや学級がよりよく変わる道徳教育			
成績評価方法		定期試験 50%, 模擬授業 20%, 授業中に作成した学習指導案 20%, 日々の振り返りシート 10%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき(2018年2月)文部科学省						
参考書		和歌山市で採用している道徳の教科書、和歌山県道徳教材「心のとびら」						
授業外の学習方法		週2時間程度の復習及び予習を行うこと。 試験対策及び指導案作成の時間も確保すること。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	前期	総合的な学習の時間指導論	山本紀代	2	選択	講義					
授業の概要		小学校教員として、総合的な学習の時間を担当できる力の修得を目指す科目である。学習指導要領にある総合的な学習の意義、内容、指導法について学ぶ。論議を通した課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の視点に立った指導方法について理解を深めると共に、学習指導案の作成の仕方及び授業の進め方等、模擬授業などの体験的な活動を通して、基本的な指導技術習得を目指す。									
授業の目標		総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など各学校の創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的な能力を身に付け、指導と評価及び実践上の留意点を理解する。									
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分						
1	「総合的な学習の時間」の背景		8	学校の創意工夫を活かした特色ある教育活動例に基づく論議（地域連携）							
2	「総合的な学習の時間」の創設理念		9	学校の創意工夫を活かした特色ある教育活動例に基づく論議（環境教育）							
3	「総合的な学習の時間」の目標構成と趣旨理解		10	特色ある教育活動案の作成演習と論議（国際理解教育）							
4	「総合的な学習の時間」の全体計画の作成に関する理解		11	特色ある教育活動案の作成演習と論議（地域連携）							
5	「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成に関する理解		12	特色ある教育活動案の作成演習と論議（環境教育）							
6	「総合的な学習の時間」の学習指導のポイントの理解		13	「総合的な学習の時間」の評価の基本的な考え方の理解							
7	学校の創意工夫を活かした特色ある教育活動例に基づく論議（国際理解教育）		14	「総合的な学習の時間」の評価の方法の理解							
成績評価方法		定期試験 30%, 課題レポート 30%, 授業への取り組み 40%									
教科書		適宜、必要な資料を配布									
参考書		『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 東洋館出版社（2018年2月）文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 東洋館出版社（2018年2月）文部科学省									
授業外の学習方法		授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。授業内容に関する調査・考察を含め週1時間程度の自主学習。									
免許・資格		小学校教諭免許必修科目									
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当									

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態							
3	前期	乳児保育 I	栗林恵	1	選択	演習							
授業の概要		乳児についての理解を深めるとともに、現場の事例をもとに乳児を取り巻く現況について理解し、乳児保育を行う際に必要な知識や技術を学習する科目である。子どもの成長発達を学び、「乳児保育」のポイントの理解を深めるとともに、豊かな保育の実践に向けて、具体的な技術や知識の修得を図る。乳児のいのちと未来を守る保育者としての役割と責務についての自覚を目指す。											
授業の目標		乳児についての理解を深めるとともに、現場の事例をもとに乳児を取り巻く現況について理解し、乳児保育を行う際に必要な知識や技術を学習する。 ・乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 ・保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 ・乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 ・乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。											
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分									
1	乳児保育の理念と役割:乳児保育の理念と歴史的変遷			8	乳児保育の現状と課題:家庭的保育等における乳児保育②								
2	乳児保育の理念と役割:乳児保育の役割と機能			9	乳児保育の現状と課題:乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場								
3	乳児保育の現状と課題:保育所における乳児保育①			10	3歳未満児の発達と保育内容:乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり								
4	乳児保育の現状と課題:保育所における乳児保育②			11	3歳未満児の発達と保育内容:6か月未満児の発達と保育内容①								
5	乳児保育の現状と課題:乳児院における乳児保育①			12	3歳未満児の発達と保育内容:6か月未満児の発達と保育内容②								
6	乳児保育の現状と課題:乳児院における乳児保育②			13	3歳未満児の発達と保育内容:6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容①								
7	乳児保育の現状と課題:家庭的保育等における乳児保育①			14	3歳未満児の発達と保育内容:6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容②								
成績評価方法		定期試験の成績 60%, 課題・小テスト等 30%, 受講態度・授業への参加度 10%											
教科書	『見る・考える・創りだす乳児保育 I・II 養成校と保育室をつなぐ理論と実践』 萌文書林 天野珠路・増田まゆみ他												
参考書	『保育所保育指針(平成29年告示)』 フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『保育所保育指針解説(平成30年3月)』 フレーベル館(2018年3月) 厚生労働省												
授業外の学習方法	週2時間程度の復習を行うこと。 小テスト・試験対策の時間も確保すること。												
免許・資格	保育士資格必修科目												
実務経験と教授内容	保育士・保育教諭経験者が全ての回を担当												

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態	
3	後期	乳児保育Ⅱ	栗林恵	1	選択	演習	
授業の概要		乳児保育を行う際に必要な知識や技術を学習する科目である。乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育の基礎理論を背景に、保育現場の実践例や具体的な指導法を学習する。指導計画の策定や模擬保育、保育環境や教材研究、子育て支援、保育者としての実践力修得を目指す。					
授業の目標		<p>乳児についての理解を深めるとともに、現場の事例とともに乳児を取り巻く現況について理解し、乳児保育を行う際に必要な知識や技術を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 ・保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 ・乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 ・乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。 					
回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分				
1	3歳未満児の発達と保育内容:0歳から:1歳3か月未満児の発達と保育内容		8	乳児保育の実際:個々の発達を促す生活と遊びの環境①			
2	3歳未満児の発達と保育内容:1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容		9	乳児保育の実際:個々の発達を促す生活と遊びの環境②			
3	3歳未満児の発達と保育内容:2歳児の発達と保育内容①		10	乳児保育の実際:職員間の協働			
4	3歳未満児の発達と保育内容:2歳児の発達と保育内容②		11	乳児保育における連携:保護者とのパートナーシップ			
5	乳児保育の実際:保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録①		12	乳児保育における連携:保健・医療機関、家庭敵意保育、地域子育て支援等との連携①			
6	乳児保育の実際:保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録②		13	乳児保育における連携:保健・医療機関、家庭敵意保育、地域子育て支援等との連携②			
7	乳児保育の実際:保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価		14	まとめ			
成績評価方法		定期試験の成績 60%, 課題・小テスト等 30%, 受講態度・授業への参加度 10%					
教科書		『見る・考える・創りだす乳児保育Ⅰ・Ⅱ 養成校と保育室をつなぐ理論と実践』 萌文書林 天野珠路・増田まゆみ他					
参考書		『保育所保育指針(平成29年告示)』 フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『保育所保育指針解説(平成30年3月)』 フレーベル館(2018年3月) 厚生労働省					
授業外の学習方法		週2時間程度の復習を行うこと。 小テスト・試験対策の時間も確保すること。					
免許・資格		保育士資格必修科目					
実務経験と教授内容		保育士・保育教諭経験者が全ての回を担当					

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	通年	幼稚園実習Ⅱ	小田真弓	2	選択	実験・実習					
授業の概要		幼稚園で2週間80時間の実習を行う。3年次では、参加・責任（部分・半日・全日）実習を行い、実際に保育の指導計画の立案と実施を行うことで、保育の理論と技術を総合的に体験する。前回実習で学んだ基本的内容を踏まえ、積極的、主体的に活動に参加し、保育の理論と技術を総合的に体験することによって幼稚園教諭として必要な保育観、知識、価値、態度、技能を修得する。									
授業の目標		幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定の仕方、学級経営の方法など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。幼稚園教育に関する正しい知識と方法、技術を身につけるとともに、保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら探究し、コミュニケーション能力・創造的表現力・論理的思考力・問題解決能力、表現力、保育技術など、幼稚園教諭として必要な技能を身につける。自らの人間性と専門性の向上に努めるとともに他の実習生や現場教員と連携した協働等の実践的な指導力の基礎を培う。									
授業のテーマ及び内容											
【幼稚園における実習の内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園の役割と機能（教育目標や教育環境） 2. 幼稚園における保育の実際 <ol style="list-style-type: none"> ①幼稚園教育要領やディリープログラムの把握 ②園内外の環境整備や教材準備 ③幼児の発達や個性の理解 ④個々の子どもや集団に対する適切な対応方法の理解 ⑤発達過程に応じた教材研究 ⑥指導計画の作成と実際・事後指導 ⑦保護者や家族、地域、園内に出入りされる方等への対応 3. 多様な保育・教育の展開と幼稚園教諭の職務・職業倫理 4. 実習した保育の省察と指導助言に基づいた自己評価分析 <p>上記1～4について、実習を通して具体的かつ理論的に学び理解する。</p>											
成績評価方法	外部評価 70%、課題レポート 10%、積極的な実習態度 20%										
教科書	大学で配布する『実習記録』 適宜資料を配布する。										
参考書	『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館（2018年9月）文部科学省 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館（2018年3月）文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館（2018年9月）内閣府・文部科学省・厚生労働省										
授業外の学習方法	授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。										
免許・資格	小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目										
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	通年	幼稚園実習指導Ⅱ	小田真弓	1	選択	演習
授業の概要		3年次の幼稚園実習Ⅱにおける事前・事後の指導を担う。幼稚園実習Ⅰの経験をもとに、自分の実習課題を明確化し、実習全体を見通した実習計画を立て、積極的、主体的に実習に挑む態度を培う。子どもの発達に応じた遊びや活動、教材・指導計画・指導案作成し、実践力を養う。事後指導では、実習の総括として具体的かつ個人的な体験を理論的に理解し、討議を重ねることにより考察する。また、幼稚園教諭の専門性と職業倫理への理解を深め、自身の課題を省察し、自分の理想とする幼稚園教諭像を確かなものにする。				
授業の目標		教育実習の意義・目的・内容を理解し、幼児教育に関する基本的な知識や論理的思考・判断力、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について総合的に理解する。実習終了後は、各自の成果と課題を省察するとともに、他者の反省からの学びを深め、新たな課題や学習目標を明確化し、新たな課題や学習目標を明確化する。				
回	授業のテーマ及び内容			<u>各回 50 分</u>		
1	オリエンテーション（教育実習の意義、目的、内容、方法の理解）			8	全日保育の計画と展開、指導案作成Ⅰ	
2	実習の態度と留意点（実習生としての態度、子どもの人権尊重、個人情報と守秘義務、安全・衛生管理）			9	全日保育の計画と展開、指導案作成Ⅱ	
3	実習課題の明確化と目標・実習記録の意義と方法の理解			10	全日保育の模擬保育（演習）	
4	保育技術の習得 個に応じた指導と援助（事例から検討）			11	教育実習の振り返り	
5	保育技術の習得 集団・学級全体への指導と援助（事例から検討）			12	個に応じた指導に関する振り返りと考察	
6	保育技術の習得 仲間関係作りと学級経営、子どもの人権を尊重した保育（事例から検討）			13	集団・学級全体への指導に関する振り返りと考察	
7	部分実習、全日実習の内容と方法、教材研究			14	子どもの人権を尊重した保育に関する振り返りと考察	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態			
3	通年	幼稚園実習指導Ⅱ	小田真弓	1	選択	演習			
回	授業のテーマ及び内容		各回 50 分						
15	実習の振り返り（実習日誌からの振り返り）		22	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)					
16	実習の振り返り（自己課題を明確にする）		23	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)					
17	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)		24	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)					
18	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)		25	幼稚園教諭の役割と社会的役割について					
19	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)		26	実習における自己評価					
20	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)		27	実習の総括					
21	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)		28	教育実習の振り返りとまとめ・今後の自身の課題と新たな学習目標の明確化					
成績評価方法		課題・レポート等の提出物 50%, 積極的な受講態度と授業の参加度 50%							
教科書		『実例でわかる実習の日誌&指導案作成マニュアル』成美堂出版(2017年3月)矢野真他監修 大学で配布する『実習記録』							
参考書		『10の姿プラス5・実践解説書』ひかりのくに(2018年) 無藤隆 編著 『ここがポイント!3 法令ガイドブック』フレーベル館(2017年) 無藤隆 他著 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省							
授業外の学習方法		授業で配布された資料やテキスト等の復習を行い、理解を深める。							
免許・資格		小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目							
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当							

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	通年	小学校実習	辻伸幸 山本紀代	4	選択	実験・実習					
授業の概要		学校現場において子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教科指導や生活指導等の観察および実践を行い、小学校教師をめざすものとして必要な知識、技能、態度等の実践的指導力を修得する科目である。特に、深い教育的愛情とたゆまぬ児童理解を根幹とし、教科指導や生活指導等の教育実践を理解し、主体的に取り組むことを目指す。また、学校での諸活動に関わりながら、組織として機能している教職員の職務を通じて、教員の役割や職業倫理についての理解を深めるとともに、教師としての自己課題の明確化を図る。これらの学びを大学での学びと関連付け、豊かな人間性をもち学び続ける教師の出発点とする。									
授業の目標		実際の小学校教育現場において指導教員のもと観察・参加・実習・省察することを通して、教員としての深い教育的愛情とたゆまぬ児童理解を深め教職に必須の知識・理解・技能を身に付け、使命感を高める。									
授業のテーマ及び内容											
<p>第1週:勤務の内容及び児童の実態把握を中心に 勤務の内容把握 授業の観察と記録 講話(学習指導要領、教育課程、特別支援教育、職責、校務、安全管理等) 児童の実態把握 児童との信頼関係の構築、児童の特性や性格、授業での学習状況、生活面での課題</p>											
<p>第2週:学年・学級経営把握を中心に 学年・学級経営把握 授業、授業以外の諸活動の観察と記録、相互観察 講話(養護教育、給食教育、情報教育、防災教育、特別活動等)</p>											
<p>第3週:教科・領域別授業実習を中心に 指導案作成、教材研究、教材準備、授業の実際、授業と評価の方法 実地授業、実地授業以外の諸活動の観察と記録、相互観察</p>											
<p>第4週:実地・研究授業実施と教育実習全般の省察 研究授業・実地授業、模擬授業、研究協議、一日担任の実施 教育実習全般の省察 自己評価、教職に向けての自己の課題整理、教育実習の記録のまとめ</p>											
成績評価方法	教育実習評価表 70%, 教育実習の記録(教育実習学びの軌跡) 20%, レポート課題 10%										
教科書	適宜、資料を配布。										
参考書	『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説』各教科編 東洋館出版社(2018年) 文部科学省										
授業外の学習方法	教育実習を行うことを念頭に関連する教科をしっかりと学ぶ。										
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目										
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	通年	小学校実習指導	辻伸幸 山本紀代	1	選択	演習		
授業の概要		小学校教育実習の事前・事後指導を担う科目である。事前指導では、教育実習の目的理念、基本的教養や実習の心構え、児童観察の仕方と理解のための方法、学習指導案や略案の作成方法と模擬授業・研究協議、教育実習記録簿、教育実習校への訪問等について実践的な準備を行う。事後指導では、実習生各自が教育実習での経験を深く反省吟味し、かつグループでディスカッションを行い、教育実習の総まとめとする。実習における教育実践の省察を通じて、教師としての自身の課題を明確にし、教師に向かっての今後の展望を持てるようにする。その上で、教育実習での学びを生かして、実習後の模擬授業を立案、実施し研究協議を協働的に行い、実践的指導力のさらなる向上を目指す。						
授業の目標		教育実習の意義や内容等を理解し、実習への意欲を高めるとともに、教科等指導、生活指導、児童理解、職務理解の基礎的なスキルを身につけることを目指す。						
回	授業のテーマ及び内容				各回 50 分			
1	オリエンテーション		8	教育実習記録簿「教育実習学びの軌跡」の書き方				
2	児童理解とその方法① 認知・理解		9	教育実習記録簿「教育実習学びの軌跡」の書き方				
3	児童理解とその方法② 対人関係		10	模擬授業① 教科並びに領域の授業設計				
4	児童理解とその方法③ 個に応じた環境設定		11	模擬授業② 教科の指導案作成				
5	学校行事について① 健康安全・体育的行事		12	模擬授業③ 領域の指導案作成				
6	学校行事について② 儀式的行事・文化的行事		13	模擬授業④ 教科の模擬授業				
7	教育実習受け入れ側(教諭)の先生から学ぶ①		14	模擬授業⑤ 領域の模擬授業				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	通年	小学校実習指導	辻伸幸 山本紀代	1	選択	演習					
回	授業のテーマ及び内容		各回 50 分								
15	模擬授業の振り返り	22	教育実習体験の共有① グループで討議								
16	学校・学級経営について	23	教育実習体験の共有② グループでまとめ								
17	教育実習受け入れ側(管理職)の先生から学ぶ②	24	教育実習体験の共有③ グループで発表								
18	教育実習を始めるにあたって① 心得	25	教育実習の自己評価								
19	教育実習を始めるにあたって② 内容	26	教育実習後の学びを深める① 自身の課題								
20	教育実習のための事前訪問について	27	教育実習後の学びを深める② 自身の目標								
21	教育実習後の実務について	28	まとめ								
成績評価方法		課題レポート 50%, 授業への取り組み 50%									
教科書	適宜、資料配布。										
参考書	『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説』各教科編 東洋館出版社(2018 年) 文部科学省										
授業外の学習方法	教育実習の事前・実施・事後に関連する教科をしっかりと学ぶ。										
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目										
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	通年	保育実習 I (保育所)	小田真弓	2	選択	実験・実習					
授業の概要		保育所(園)での見学・参加実習を通して、保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する科目である。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めるとともに、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解するとともに、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を目指す。									
授業の目標		保育所の生活に実際に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育者の職務について学び、自らの人間性と専門性の向上に努め、保育に関する基本的知識について総合的に理解する。									
授業のテーマ及び内容											
<p>【保育所実習における実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能(保育所の生活や一日の流れ) 2. 子ども理解(子どもの観察とその記録・発達過程) 3. 保育技術(保育者の援助や関わり) 4. 保育内容(保育課程に基づく保育内容・乳幼児の発達過程に応じた活動や援助) 5. 保育環境(乳幼児の発達過程に応じた援助とかかわり・衛生、安全及び疾病予防の環境設定や配慮) 6. 計画と記録(保育課程に基づく計画の理解と活用・記録に基づく省察、自己評価) 7. 専門職としての保育士の役割と倫理 <p>(保育士の業務内容・職員間の役割分担とチームワークや連携・保育士の役割と職業倫理)</p> <p>上記1～7について、実習を通して具体的に学び理解する。</p>											
成績評価方法	外部評価 70%, 課題レポート 10%, 積極的な実習態度 20%										
教科書	大学で配布する『実習記録』 適宜、資料を紹介する。										
参考書	『実例でわかる実習の日誌&指導案作成マニュアル』成美堂出版(2017年3月)矢野真他監修 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月)文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月)厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』チャイルド本社 2017年6月										
授業外の学習方法	授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。										
免許・資格	保育士資格必修科目										
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	通年	保育実習指導 I (保育所)	小田真弓	1	選択	演習
授業の概要		本科目は、保育実習 I (保育所) の事前事後指導を行う科目である。講義を通して、保育実習の意義・目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの課題の明確化を目指す。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることを目標とする。				
授業の目標		保育実習 I (保育所) に必要な保育所や児童福祉施設の状況、実習の意義・内容・留意点を知ることにより、各自の習得課題を明確にして実習への意欲を高め、準備を行うことを目標とする。また、実習の経験を振り返ることにより、習得したことがらを関連科目の学習や進路選択などに活かすことができるようになる。実習の意義、目的、内容、方法、留意事項を具体的に理解し、説明することができる。保育参加・補助の方法、子ども理解の方法、実習日誌の記録の仕方、子どもの年齢に応じた指導計画の作成方法等を検討することができる。実習を自己点検・反省・評価し、自分の課題を抽出し、探究することができる。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 50 分		
1	オリエンテーション (保育実習の意義、目的、内容と方法、手続き、訪問時の留意事項等)			8	保育課程の理解と実習記録の意義・方法 (書き方)	
2	保育実習の内容と課題の明確化			9	保育実習指導案の書き方の意義・方法 (書き方)	
3	実習の態度と留意点 (実習生としての態度、子どもの人権尊重と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務、乳幼児の健康・安全・衛生管理)			10	実習に際しての留意事項 (子ども・利用者の人権と最善の利益)	
4	保育所および施設の背景となる法制度の理解			11	実習に際しての留意事項 (プライバシーの保護と守秘義務)	
5	保育所保育指針と子どもの発達から生活と保育者のかかわりを理解する (0歳から2歳)			12	実習の際しての留意事項 (実習生としての心構えとマナー)	
6	保育所保育指針と子どもの発達から生活と保育者のかかわりを理解する (3歳から就学前)			13	実習計画と記録	
7	園生活と保育環境、活動と保育者のかかわり、保育表現技術について理解する			14	実習前の事前確認	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
3	通年	保育実習指導 I (保育所)	小田真弓	1	選択	演習					
回	授業のテーマ及び内容		各回 50 分								
15	実習の振り返り(実習日誌からの振り返り)	22	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)								
16	実習の振り返り(自己課題を明確にする)	23	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)								
17	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)	24	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)								
18	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)	25	園生活と保育環境に関する振り返りと考察								
19	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)	26	活動と保育者のかかわりに関する振り返りと考察								
20	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)	27	子どもの人権と最善の利益についての考察								
21	実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)	28	保育実習の振り返りとまとめ・今後の自身の学習課題の明確化と展望								
成績評価方法		課題・レポート等の提出物 50%, 積極的な受講態度と授業の参加度 50%									
教科書	大学で配布する『実習記録』 適宜、資料を紹介する。										
参考書	『保育の指導計画と実践 演習ブック』ミネルヴァ書房(2016年)門谷真希著 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月)文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月)厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』チャイルド本社 2017年6月										
授業外の学習方法	授業で配布された資料やテキスト等の復習を行い、理解を深める。										
免許・資格	保育士資格必修科目										
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
2後 3前	通年	保育実習 I (施設)	森下順子	2	選択	実験・実習					
授業の概要		居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、施設の役割と機能、施設の生活と一日の流れ、保育者の責務の理解を目指す科目である。子どもの観察とその記録を通して、子ども理解を深め、ここの状況に応じた援助の方法を学ぶ。計画に基づく活動や援助、子どもの発達に応じた対応について実践的に学ぶ。実習計画や記録を作成し、支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価の方法について学び、専門職としての保育士の役割と倫理について考察する。									
授業の目標		居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、利用児(者)への理解を深めるとともに、施設等の機能と専門職としての保育士の役割や倫理等、その職務について学ぶ。									
授業のテーマ及び内容											
居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等での実習:10日間											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能について理解する。 2. 施設の生活と一日の流れを理解し、参加する。 3. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 4. 利用児(者)の観察や関わりを通して、個々の状態に応じた援助の必要性を理解する。 5. 利用児(者)の最善の利益についての配慮を学ぶ。 6. 子どもの生活や環境を通して、家庭・地域社会の現状を理解する。 7. 支援計画を理解し、活動や援助に活かそうとする。 8. 保育士としての役割や職業倫理を理解する。 9. 職員間の役割分担と連携について理解する。 10. 介護、介助及び交流等を体験する（介護等の体験）。 11. 健康管理・安全対策への配慮について理解する。 12. 観察・記録に基づく省察や自己評価を行い、自己課題を明確にする。 											
成績評価方法	外部評価 70%, 課題レポート 10%, 積極的な実習態度 20%										
教科書	『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 大学で配布する『実習記録』 適宜資料を配布する。										
参考書	『施設実習パーカーフェクトガイド』わかば社(2019) 適宜紹介する。										
授業外の学習方法	授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。										
免許・資格	保育士資格必修科目 小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。										
実務経験と教授内容	実務経験者が実習責任者として担当。実習現場では現職教員が指導を行う。										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
2後～3前	通年	保育実習指導 I (施設)	森下順子	1	選択	演習
授業の概要		居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、施設の役割と機能、施設の生活と一日の流れ、保育者の責務の理解を目指す科目である。子どもの観察とその記録を通して、子ども理解を深め、この状況に応じた援助の方法を学ぶ。計画に基づく活動や援助、子どもの発達に応じた対応について実践的に学ぶ。実習計画や記録を作成し、支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価の方法について学び、専門職としての保育士の役割と倫理について考察する。				
授業の目標		保育実習の意義・目的及び実習の内容、子どもの人権と最善の利益の考慮や守秘義務等について理解する。実習後、自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 50分		
1	オリエンテーション・施設実習とは何か		8	施設実習の内容について		
2	施設実習の意義と目的		9	子ども・利用者の人権と最善の利益について		
3	施設における保育士の職務内容		10	プライバシーの保護と守秘義務		
4	児童福祉施設について I (種類と概要)		11	実習の心得		
5	児童福祉施設について II (養護系の施設)		12	実習日誌等の記録について		
6	児童福祉施設について III (障害系の施設)		13	実習前の事前確認		
7	児童福祉施設についてIV(育成系の施設)		14	実習前の事前確認		

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	必・選 (卒業)	授業形態					
2後～ 3前	通年	保育実習指導 I (施設)	森下順子	1	選択	演習					
回	授業のテーマ及び内容		各回 50 分								
15	実習の振り返り(実習日誌からの振り返り)	22	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)								
16	実習の振り返り(自己課題を明確にする)	23	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)								
17	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)	24	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)								
18	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)	25	保育者の役割と社会的役割について								
19	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)	26	実習における自己評価								
20	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)	27	実習の総括								
21	実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)	28	課題の明確化・まとめ								
成績評価方法		課題・レポート等の提出物 50%, 積極的な受講態度と授業の参加度 50%									
教科書	『保育所保育指針(平成 29 年告示)』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省 大学で配布する『実習記録』										
参考書	『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房、『施設実習パーソナルガイド』わかば社(2019)、適宜紹介										
授業外の学習方法	配布資料等の復習を行い、理解を深める。										
免許・資格	保育士資格必修科目 小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。										
実務経験と教授内容	実務経験者がすべての回を担当。										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	後期	保育実習Ⅱ	小田真弓	2	選択	実験・実習
授業の概要		保育所(園)で参加・責任実習を行い、その役割や機能、保育士の責務について具体的な実践を通して理解を深める科目である。子どもの観察やかかわりの視点を明確化することを通して保育の理解を深めるとともに、既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育や発達及び保護者への支援について総合的に学ぶ。乳幼児の生活、保育の計画、内容、環境、観察、記録及び省察や自己評価等について理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、保育士としての自己課題明確化を目指す。				
授業の目標		保育所(園)実習において、子ども理解を深めるとともに保育者の役割を実践的に学び、責任実習を行う。理論や知識、技術を実践に応用し、保育の理論と実践を深めていくとともに、自己の課題を明確化し、保育観を構築していくことをねらいとする。				

授業のテーマ及び内容

【保育所実習における実習の内容】

1. 保育所の役割と機能
2. 保育所における保育の実際
 - ①保育課程やデイリープログラムの把握
 - ②園内外の環境整備・教材準備
 - ③乳幼児の発達や個性の理解・個々の子どもや集団に倒する適切な対応方法の理解
 - ④発達過程に応じた教材研究・指導計画の作成と実際・事後指導
 - ⑤多様なサービス(延長保育等)の体験と必要性の理解
 - ⑥保護者や家族、地域、園内外に出入りされる方等への対応
 - ⑦地域社会との連携
3. 多様な保育の展開と保育士の業務、保育士の職業倫理
4. 実習した保育の省察と指導助言に基づいた自己評価分析

上記1~4について、実習を通して具体的かつ理論的に学び理解する。

成績評価方法	外部評価 70%, 課題レポート 10%, 積極的な実習態度 20%
教科書	大学で配布する『実習記録』 適宜、資料を紹介する。
参考書	『実例でわかる実習の日誌&指導案作成マニュアル』成美堂出版(2017年3月)矢野真他監修 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月)文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月)厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』チャイルド本社 2017年6月
授業外の学習方法	授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。
免許・資格	保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	後期	保育実習指導Ⅱ	小田真弓	1	選択	演習		
授業の概要		本科目は、保育実習Ⅱの事前事後指導を担う科目である。講義を通して、保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培うことを目的とすると共に、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育士の専門性と職業倫理への理解を深め、保育に対する課題や認識を明確にする。						
授業の目標		実習の意義・目的・内容を理解し、保育士の業務内容や役割等に関する基本的な知識や論理的思考・判断力、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について総合的に理解する。実習終了後は、各自の成果と課題を省察するとともに、他者の反省からの学びを深め、新たな課題や学習目標を明確化する。保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育改善や事例を通して学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括を自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション(保育実習の意義、目的、内容と方法、手続き、訪問時の留意事項等)			8	全日保育の計画と展開、保育実習指導案作成する。			
2	実習の態度と留意点(実習生としての態度、子どもの人権尊重と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務、乳幼児の健康・安全・衛生管理)			9	全日保育の模擬保育(演習)			
3	実習課題の明確化と目標・実習記録の意義と方法を理解する。			10	保育実習の振り返りを行う。			
4	保育技術の習得 個に応じた対応と援助(事例から検討)			11	個に応じた対応に関する振り返りと考察をする。			
5	保育技術の習得 子どもの人権と最善の利益を尊重した保育(事例から検討)			12	子どもの人権と最善の利益を尊重した保育に関する振り返りと考察をする。			
6	多様なニーズ(保護者・家族対応、子育て支援、他専門機関との連携)に応じた対応の実際を理解する。			13	保育士の専門性と職業倫理を考察し理解する。			
7	部分実習、全日責任実習の内容と方法、教材研究を行う。			14	保育実習の振り返りとまとめ・今後の自身の課題と新たな学習目標の明確化する。			
成績評価方法	課題・レポート等の提出物 50%, 積極的な受講態度と授業の参加度 50%							
教科書	大学で配布する『実習記録』 適宜、資料を紹介する。							
参考書	『保育の指導計画と実践 演習ブック』ミネルヴァ書房(2016年) 門谷真希著 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』チャイルド本社 2017年6月							
授業外の学習方法	授業で配布された資料やテキスト等の復習を行い、理解を深める。							
免許・資格	保育士資格選択必修科目							
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当							

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	通年	保育内容実践研究	戸澗幸夫 森下順子 桐山由香 小田真弓	2	選必	演習
授業の概要		幼稚園教育要領・保育所保育指針にある保育の内容と遊びを通しての保育の援助・指導の在り方を実践的に学ぶ科目である。複数の担当教員の下、自身の課題とする領域分野に基づき、少人数に分かれて学びを深める。グループ討議や事例研究、教育現場の観察、視聴覚教材による学習、教材研究、指導計画案の作成、模擬保育、評価と改善等を通じて、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する保育について体感的に学習し、より良い保育を目指して、探求する態度を身につける。				
授業の目標		幼稚園教育要領・保育所保育指針にある保育の内容と遊びを通しての保育の援助・指導の在り方を実践的に学ぶ科目である。 ・より良い保育を目指して、学び続け、探求する態度が身についている。 ・領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる ・領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材研究の手法や情報機器の利用法を理解し、保育の構想に活用することができる。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	授業の意義・概要・授業の進め方についてガイダンスする。			8	実習を振り返り、実習から得たこと、自身の成果と課題を考える。	
2	事例研究：保育の実際について視聴覚教材や資料を基に事例研究を行う。DVD乳幼児教育者になるための「保育所と幼稚園の1日」を視聴			9	実習の反省を、各自発表する。	
3	事例研究：保育の実際について視聴覚教材や資料を基に事例研究を行う。DVD乳幼児の発達と保育（0歳児編・1～2歳児編・3～5歳児編）を視聴			10	9月の幼稚園実習を視野に、指導計画案の評価・改善:指導計画案の内容をグループで評価・検討し、改善案を提案する。	
4	6月の保育園実習に向け、指導案の書き方を学ぶ。			11	9月の幼稚園実習を視野に、指導計画案の評価・改善:指導計画案の内容をグループで評価・検討し、改善案を提案する。	
5	隣接する和歌山市立本町こども園に出向き、3歳未満児の保育の実際について調査を行う。			12	模擬保育:策定した指導計画案を基に個別に模擬保育を行い、グループで評価する。	
6	隣接する和歌山市立本町こども園に出向き、3～5歳児の保育の実際について調査を行う。			13	模擬保育:策定した指導計画案を基に個別に模擬保育を行い、グループで評価する。	
7	実習を視野に、指導計画案を作成する。			14	前期のまとめと幼稚園実習に向けての課題について発表する。	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態								
3	通年	保育内容実践研究	戸潤幸夫 森下順子 桐山由香 小田真弓	2	選必	演習								
回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分											
15	幼稚園実習を振り返り、実習から得たこと、自身の成果と課題を考える。		22	保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。										
16	実習の反省を、各自発表する。		23	発表会に向けての準備：研究の成果をまとめ、プレゼン内容と方法を検討する。										
17	実習や前期に学んだことから、追求したい課題を決定し、自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。		24	発表会に向けての準備：研究の成果をまとめ、プレゼン内容と方法を検討する。										
18	保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。		25	発表会に向けての準備：研究の成果をまとめ、プレゼン内容と方法を検討する。										
19	保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。		26	保育内容研究発表会：グループでまとめた研究成果を発表する。										
20	保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。		27	保育内容研究発表会：グループでまとめた研究成果を発表する。										
21	保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。		28	まとめと授業の振り返り										
成績評価方法		課題レポート 40%, 研究発表のプレゼンの内容 30%, 授業への取り組み 30%												
教科書	『幼稚園教育要領(平成 29 年告示)』フレーベル館(2018 年 9 月) 文部科学省 『保育所保育指針(平成 29 年告示)』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年告示)』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省													
参考書	担当教員が作成した演習カード 適宜、資料配布、紹介する。													
授業外の学習方法	授業内容の整理と次回までの課題に取り組む。													
免許・資格	保育士資格必修科目、幼保コース実習参加要件													
実務経験と教授内容														

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	通年	教科実践研究	秋吉博之 小林康宏 辻 伸幸 山本紀代	2	選必	演習
授業の概要		小学校学習指導要領にある、教科の内容と、指導法を実践的に学ぶ科目である。複数の担当教員の下、自身の課題とする教科分野に基づき、8~10人程度の少人数に分かれて学びを深める。グループ討議や事例研究、教育現場の観察、視聴覚教材による学習、教材研究、指導計画案の作成、模擬授業、評価と改善等を通じて、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する教育について体感的に学習し、より良い教育を目指して、探求する態度を身につける。				
授業の目標		小学校学習指導要領に示されている、教科の内容と、指導法を実践的に学ぶなかで、次の態度や能力を身につける。 ・より良い教育を目指して、学び続け、探求する態度が身についている。 ・教科の特性に応じた教育実践の動向を知り、教科構想の向上に取り組むことができる。 ・教科の特性や児童の体験との関連を考慮した教材研究の手法や情報機器の利用法を理解し、授業の構想に活用することができる。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	オリエンテーション			8	グループ活動①指導案作成 I (A-国語、B-算数、C-理科、D-英語)	
2	教科指導(英語)			9	グループ活動②模擬授業 I (A-国語、B-算数、C-理科、D-英語)	
3	教科指導(国語)			10	グループ活動①指導案作成 I (A-算数、B-理科、C-英語、D-国語)	
4	教科指導(算数)			11	グループ活動②模擬授業 I (A-算数、B-理科、C-英語、D-国語)	
5	教科指導(理科)			12	グループ活動①指導案作成 I (A-理科、B-英語、C-国語、D-算数)	
6	グループ活動①指導案作成 I [グループ A~D 毎] (A-英語、B-国語、C-算数、D-理科)			13	グループ活動②模擬授業 (A-理科、B-英語、C-国語、D-算数)	
7	グループ活動②模擬授業 I (A-英語、B-国語、C-算数、D-理科)			14	前期のまとめ	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
3	通年	教科実践研究	秋吉博之 小林康宏 辻 伸幸 山本紀代	2	選必	演習		
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
15	オリエンテーション			22	グループ活動①指導案作成 II (A-国語、B-算数、C-理科、D-英語)			
16	教科指導(英語)			23	グループ活動②模擬授業 II (A-国語、B-算数、C-理科、D-英語)			
17	教科指導(国語)			24	グループ活動①指導案作成 II (A-算数、B-理科、C-英語、D-国語)			
18	教科指導(算数)			25	グループ活動②模擬授業 II (A-算数、B-理科、C-英語、D-国語)			
19	教科指導(理科)			26	グループ活動①指導案作成 II (A-理科、B-英語、C-国語、D-算数)			
20	グループ活動①指導案作成 II [グループ A～D 毎] (A-英語、B-国語、C-算数、D-理科)			27	グループ活動②模擬授業 II (A-理科、B-英語、C-国語、D-算数)			
21	グループ活動②模擬授業 II (A-英語、B-国語、C-算数、D-理科)			28	全体のまとめ			
成績評価方法		学習指導案の作成 40%, 模擬授業の実施 40%, 受講態度・授業への取り組み 20%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版(2018年2月)文部科学省						
参考書		適宜、図書・資料を提示する。						
授業外の学習方法		次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。						
免許・資格		小幼コース実習参加要件						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
3	通年	専門ゼミナール I	村上 秋吉 小林 戸潤 木本 桑原 溝口 達 桐山 山本	2	必修	演習
授業の概要		自身の興味・関心に基づき、教育・保育に関する課題を深く探求する科目である。関心に基づくテーマについて、少人数のグループに分かれ、指導する教員や学生とともに、議論しながら学んでいく。テキストや論文の輪読、自主学習の成果発表、研究発表会等において意見交換や討議することで知識を深める。必要に応じて、グループでの共同研究やフィールドワーク（現地調査や事情視察など）を実施する。				
授業の目標		受講者の興味・関心に基づき、教育・保育に関する課題を深く探求し、少人数のゼミ活動を通じて専門知識を深めるなかで、次の態度や能力を身につける。 ・主体的に学び探求する態度を身につけている。 ・専門分野の文献内容を理解し、探求活動に活かすことができる。 ・討議を通じて、相手の意見を理解し、自身の考えを分かりやすく伝えることができる。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	テーマ設定			8	研究計画の発表と討議 II (学生による発表と討議②)	
2	輪読と論文紹介 I (学術論文①の紹介)			9	研究計画の発表と討議 III (学生による発表と討議③)	
3	輪読と論文紹介 II (学術論文②の紹介)			10	研究計画の発表と討議 IV (学生による発表と討議④)	
4	輪読と論文紹介 III (学術論文③の紹介)			11	研究論文構想に関する報告と討論 I (学生による報告と討議①)	
5	輪読と論文紹介 IV (学術図書①の紹介)			12	研究論文構想に関する報告と討論 II (学生による報告と討議②)	
6	輪読と論文紹介 V (学術図書②の紹介)			13	研究論文構想に関する報告と討論 III (学生による報告と討議③)	
7	研究計画の発表と討議 I (学生による発表と討議①)			14	中間まとめ	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態			
3	通年	専門ゼミナール I	村上 秋吉 小林 戸潤 木本 桑原 溝口 達 桐山 山本	2	必修	演習			
回	授業のテーマ及び内容		各回 100 分						
15	個人の研究テーマの発表		22	研究報告会と討論III(学生による発表と討議③)					
16	論文作成のための情報収集 I (文献検索の方法)		23	研究計画の発表と討議IV(学生による発表と討議④)					
17	論文作成のための情報収集 II (文献検索の実際)		24	研究計画の発表と討議V(学生による発表と討議⑤)					
18	論文作成のための情報収集III(学術図書の検索)		25	研究論文(中間)発表会 I (学生による発表①)					
19	論文作成のための情報収集IV(査読論文の検索)		26	研究論文(中間)発表会 II (学生による発表②)					
20	研究報告会と討論 I (学生による発表と討議①)		27	研究論文(中間)発表会III(学生による発表③)					
21	研究報告会と討論 II (学生による発表と討議②)		28	総括					
成績評価方法		研究レポート 50%, プрезентーション 30%, 受講態度 20%							
教科書		適宜、図書・論文等を紹介する。							
参考書		『よくわかる卒論の書き方[第2版]』ミネルヴア書房(平成25年2月)白井 利明、高橋 一郎著							
授業外の学習方法		次回に行われる資料等を事前に読んでおくこと。							
免許・資格									
実務経験と教授内容									

**和歌山信愛大学
教育学部 子ども教育学科**

〒640-8022 和歌山市住吉町1番地
TEL :073-488-3120(教学センター)
Mail:kyogaku-c@shinai-u.ac.jp

学籍番号

氏 名